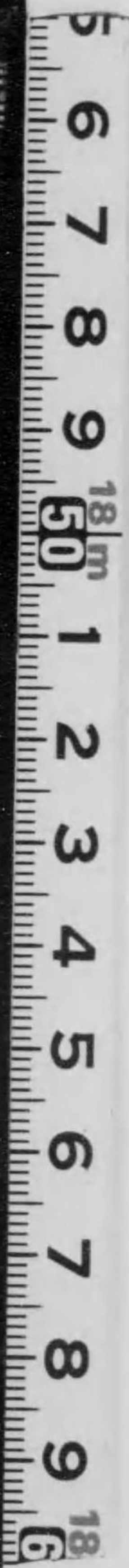


97
392



始



15.2.10

97
392

大正十四年

帝國學士院一覽

(大正十四年四月調)

97-392

帝國學士院一覽

發行所寄贈本

目次

第一	沿革略	一頁
第二	帝國學士院規程	三七頁
第三	帝國學士院會則	四三頁
第四	帝國學士院授賞規則	四八頁
第五	恩賜賞ニ關スル決議	五六頁
第六	寄附金ヲ以テスル賞ニ關スル決議	五七頁
第七	條件附寄附金ニ關スル決議	五八頁
第八	藤田男爵獎學費給與ニ關スル決議	五八頁
第九	末松子爵夫人寄附羅馬法獎勵資金ノ使途ニ關スル決議	五九頁
第十	松方公爵米壽祝賀記念獎學資金ニ關スル決議	六一頁

大正 14. 6. 5 寄贈

目次

第十一	大阪毎日新聞社長本山彦一寄附東宮御成婚記念學術獎勵資金ノ使途ニ關スル決議	六二頁
第十二	學術研究費補助ニ關スル決議	六三頁
第十三	學術研究費補助推薦ニ關スル決議	六四頁
第十四	出版ニ關スル決議	六五頁
第十五	帝國學士院紀事及別冊ノ出版ニ關スル決議	六六頁
第十六	學術獎勵金	六七頁
第十七	役員	七七頁
第十八	會員	七七頁
第十九	事務職員	八二頁
第二十	事業擔當會員囑託員及出版委員	八二頁
第二十一	論文	八五頁
第二十二	出版	九七頁
第二十三	受賞者	九九頁



第二十四	藤田男爵獎學費受費者	一〇七頁
第二十五	子爵夫人末松生子羅馬法獎勵獎學品受品者	一一一頁
第二十六	補助研究事項	一一七頁
第二十七	東照宮三百年祭記念會へ補助推薦ノ研究事項	一三一頁
第二十八	帝國學士院前役員	一三七頁
第二十九	帝國學士院前會員及前客員	一三九頁
第三十	元東京學士會院役員	一四三頁
第三十一	元東京學士會院會員及客員	一四五頁
第三十二	大正七年五月十二日帝國學士院授賞式ニ於ケル穗積院長ノ演說	一五〇頁
第三十三	明治四十四年七月五日恩賜賞授與式ニ於ケル菊池前院長ノ演說	一五八頁

第三十三	...	一五八頁
第三十二	...	一五七頁
第三十一	...	一五六頁
第三十	...	一五五頁
第二十九	...	一五四頁
第二十八	...	一五三頁
第二十七	...	一五二頁
第二十六	...	一五一頁
第二十五	...	一五〇頁
第二十四	...	一四九頁

帝國學士院一覽 (大正十四年四月調)

第一 沿革略

帝國學士院ノ元ト東京學士會院ト稱セリ今其ノ起原沿革ヲ略叙スレ

明治十一年十二月

文部卿西郷從道當時文部省雇顧問タリシ米人モル
 レー氏ノ建議ニ由リ學士會院ヲ設クルノ必要ヲ認
 メ乃チ東京學士會院規則大意及選舉案ヲ西周、加藤
 弘之、神田孝平、津田真道、中村正直、福澤諭吉、箕作秋坪
 ノ七名ニ諮詢シテ其ノ協賛ヲ得以テ之ヲ創設スル
 ニ至レリ

文部大輔田中不二麿(文部卿)右西周以下ノ七名ヲ東
 京學士會院ノ會員ニ選舉シ其ノ報帖ヲ交付シ文部

十二年一月

明治十二年	四月	省内修文館ヲ假用シ東京學士會院ヲ置ク 東京學士會院規則ヲ定ム其ノ要項ハ教育ノ事ヲ討 議シ學術技藝ヲ評論スルヲ以テ主トシ會員ハ四十 名ヲ限リ東京學士會院ニ於テ選舉シ文部卿ノ認可 ヲ經ルノ制ナリ
十三年	五月	東京學士會院雜誌ヲ發行ス
十四年	九月	東京學士會院ヲ湯島昌平館ニ移ス
十五年	四月	東京學士會院ヲ修文館ニ移ス
十六年	一月	東京學士會院ヲ再ヒ昌平館ニ移ス
十七年	十二月	昌平館類焼ニ罹リ本院會場器具及藏書百七十部ヲ 燒失ス尋テ本院ヲ修文館ニ假設ス
十八年	十月	東京學士會院ヲ東京教育博物館(上野)ニ移ス
十九年	十二月	文部卿大木喬任東京學士會院組織大綱ヲ示ス其ノ 要旨ハ學藝ノ品位ヲ高クシ以テ教化ノ裨補ヲ圖ル

十九年	四月	ニ在リ會員ハ帝室ノ御選ニ係ル者十五名會員ノ推 選ニ係ル者二十五名ヨリ成ル等ナリ 舊規則ヲ廢シ更ニ右大綱ニ基キ會則ヲ定メ同年九 月ヨリ實施ス
二十年	一月	會員ノ講演ヲ公開ス
二十一年	九月	文部大臣ヨリ從來文部省編輯局ニテ從事セシ古事 類苑ノ編纂ヲ本院ニ囑託サル
二十二年	十一月	東京學士會院ヲ東京教育博物館構内新築館(上野) 移ス
二十三年	三月	文部省ヨリ古事類苑編纂ノ囑託ヲ解カル
二十四年	十月	勅令第二百六十四號ヲ以テ東京學士會院規程ヲ發 布セラル
二十五年	十一月	文部大臣ノ認可ヲ經テ會則ヲ定ム
二十八年	三月	勅令第十七號ヲ以テ東京學士會院規程補則ヲ發布

明治三十三年
三十四年

五月
六月

セラ

皇太子殿下御慶事奉賀ノ爲賀表ヲ捧呈ス

定期刊行ノ東京學士會院雜誌ヲ廢シ同年七月ヨリ

東洋學藝社ト契約シ毎月講演ノ論說及記事等ハ同

社ノ雜誌ニ掲載スルコト、ス

勅令第四百四十九號ヲ以テ帝國學士院規程ヲ發布セ

ラル

文部大臣ノ認可ヲ經テ會則ヲ定ム

院長幹事部長ノ選舉ヲ行ヒ院長ニ文學博士法學博

士男爵加藤弘之幹事ニ文學博士重野安釋第一部々

長ニ法學博士穗積陳重第二部々長ニ理學博士男爵

菊池大麓當選就任ス

和算史調査ノ件ヲ議決シ同月ヨリ着手ス

文部大臣ノ認可ヲ經テ會則ヲ改正ス

三十九年

六月

七月

同月

同月

同月

同月

十二月

四十年

四月

同月

同月

同月

同月

同月

同月

同月

同月

同月

同月

同月

同月

同月

同月

帝國學士院ハ萬國學士院聯合會ニ加入ス
明治三十四年六月東洋學藝社ト契約セシ件ヲ解ク
會員文學博士重野安釋同理學博士男爵菊池大麓
國維也納府ニ於ケル第三回萬國學士院聯合會へ委
員トシテ參列被仰付
國語調査委員會ノ編輯ニ係ル假名遣及假名字體沿
革史料ヲ本院ニ於テ出版スルコトニ議決シ同月ヨ
リ着手ス
出版ニ關スル決議及學術研究費補助ニ關スル決議
ヲ議定ス
文部大臣ノ認可ヲ經テ會則ヲ追加ス
出版ニ關スル決議ヲ修正ス
帝國學士院紀事出版ニ關スル第二部決議ヲ議定ス
伊能忠敬測地事蹟ヲ調査スルコトニ議決シ同年八

四十一年

六月

十二月

同月

同月

同月

同月

同月

同月

同月

同月

同月

同月

同月

同月

明治四十二年

一月	月ヨリ着手ス 燃黎室記述調査ノ件ヲ議決シ同月ヨリ着手ス 羅馬法ニ關スル書籍ノ翻譯出版ノ件ヲ議決ス
同月	ライプツヒ大學創立五百年祝賀式へ祝文ヲ贈ルコト及同祝賀式へ本院會員ノ代表者ヲ參列セシムル件ヲ議決ス
三月	假名遣及假名字體沿革史料ノ出版成リ須要ニ應シテ配付ス
同月	哲學字彙刊行ノ件ヲ議決ス
四月	會員文學博士中島力造へ本院會員ノ代表者トシテライプツヒ大學創立五百年祝賀式ニ參列ヲ委囑ス
六月	院長幹事部長任期滿了ニ付改選ヲ行ヒ院長ニ理學博士男爵菊池大麓幹事ニ法學博士宮崎道三郎第一部々長ニ法學博士穗積陳重第二部々長ニ工學博士
同月	

四十三年 四月

四月	古市公威當選シ文部大臣ノ認可ヲ經テ七月就任ス 會員理學博士櫻井錠二ヲ伊國羅馬府ニ於ケル第四回萬國學士院聯合大會へ帝國學士院代表委員トシテ參列セシムル件ヲ議決ス
五月	會員醫學博士三浦謹之助へ本院會員ノ代表者トシテベルリン大學創立百年祝賀式ニ參列ヲ委囑ス
七月	左ノ御沙汰書ヲ拜受ス 帝國學士院 其院ノ目的ヲ遂行スル爲メ普ク學術ノ研究ヲ獎勵スル旨趣ヲ以テ授賞ノ制ヲ定メントスルノ計畫有之候趣被 聞食特ニ賞典資トシテ本年ヨリ十箇年間年々金貳千圓下賜候事

明治四十三年七月五日

宮内省

明治四十三年
四十四年

十月
二月
三月
同月
四月
六月
七月
十月

文部大臣ノ認可ヲ經テ本院授賞規則ヲ定ム
恩賜賞ニ關スル決議ヲ議定ス(四月追加議決)
法律第三十八號ヲ以テ帝國學士院學術獎勵金特別
會計法ヲ發布セラル
勅令第六十九號ヲ以テ帝國學士院學術獎勵金特別
會計規則ヲ發布セラル
日英博覽會ヨリ本院出品物ニ對シ賞狀並ニ賞牌ヲ
贈與セラル
會員理學博士大森房吉へ本院會員ノ代表者トシテ
プレスラウ大學創立百年祝賀式ニ參列ヲ委囑ス
理學博士木村榮ニ恩賜賞ヲ授與ス
男爵三井八郎右衛門及男爵岩崎久彌ヨリ學術研究
獎勵ノ爲各向フ十箇年間毎年金壹千圓ツ、合計金
壹萬圓寄附致度旨申出アリ之ヲ受諾スルコトニ議

四十二年

明治十五年

大正元年

十一月
同月
十二月
同月
三月
五月
同月
六月

決ス
出版ニ關スル決議ヲ修正ス
寄附金ヲ以テスル賞ニ關スル決議ヲ議定ス
帝國學士院紀事出版ニ關スル第二部決議ヲ廢シ更
ニ帝國學士院紀事及別冊ノ出版ニ關スル決議ヲ議
定ス
帝國學士院紀事第一卷第一ヲ發行ス
法學博士文學博士有賀長雄、富士川游、平瀬作五郎、池
野成一郎へ各恩賜賞ヲ工學博士藥學博士高峯讓吉
へ帝國學士院賞ヲ授與ス
寄附金ヲ以テスル賞ニ關スル決議ヲ修正ス
院長幹事部長ノ改選ヲ行ヒ院長ニ理學博士男爵菊
池大麓幹事ニ法學博士宮崎道三郎、第一部々長ニ法
學博士穗積陳重、第二部々長ニ工學博士古市公威當

大正元年

十月

選シ文部大臣ノ認可ヲ經テ七月就任ス
工學博士藥學博士高峯讓吉ヨリ學術研究獎勵ノ爲
金五千圓寄附致度旨申出アリ之ヲ受諾スルコトニ
議決ス

十二月

男爵住友吉左衛門ヨリ學術研究獎勵ノ爲向フ十箇
年間毎年金壹千圓ツ、合計金壹萬圓寄附致度旨申
出アリ之ヲ受諾スルコトニ議決ス

二年

三月

帝國學士院紀事第一卷第二ヲ發行ス
會員理學博士坪井正五郎ヲ露國聖彼堡得ニ於ケル
第五回萬國學士院聯合大會ヘ帝國學士院代表委員
トシテ參列セシムル件ヲ議決ス

四月

大正二年度學術研究費補助ノ件ヲ議決ス

五月

帝國學士院第一部論文集第一號ヲ發行ス
村岡良弼、醫學博士上阪熊勝ヘ各恩賜賞ヲ、理學博士

六月

七月

三年

同月

五島清太郎近藤基樹ヘ各帝國學士院賞ヲ授與ス
法學博士宮崎道三郎幹事ヲ辭任セルニ付補缺選舉
ヲ行ヒ理學博士櫻井錠二當選シ文部大臣ノ認可ヲ
經テ同月就任ス

十一月

エヂンボロー皇立學士院及ヘルシングフオールス
學士院ノ萬國學士院聯合會ヘ加入ノ件ニ同意ヲ與
フルコトニ議決ス

十一月

帝國學士院紀事第一卷第三ヲ發行ス
帝國學士院第二部メモアル第一卷第一ヲ發行ス
羅馬法ニ關スル書籍翻譯事業中ユ帝欽定羅馬法學
提要成リ書房ヲシテ刊行セシム

十二月

古河虎之助ヨリ學術研究獎勵ノ爲向フ十箇年間毎
年金壹千圓ツ、合計金壹萬圓寄附致度旨申出アリ

同月

大正三年 三月

之ヲ受諾スルコトニ議決ス
萬國學士院聯合會評議員改選ニ付院長理學博士男
爵菊池大麓第一部々長法學博士穗積陳重ヲ評議員
ニ選定ス

五月

大正三年度學術研究費補助ノ件ヲ議決ス

七月

醫學博士田原淳へ恩賜賞ヲ竹添進一郎理學博士日
下部四郎太へ各帝國學士院賞ヲ授與ス

十一月

著者名ノ書方ニ關スル件ヲ議決ス

十二月

勅令第二百五十八號ヲ以テ帝國學士院會員ハ勅任
官ヲ以テ待遇セラルヘキ旨公布セラル

同月

帝國學士院紀事第一卷第四ヲ發行ス

四年 二月

羅馬法ニ關スル書籍翻譯事業中ウルピアース羅
馬法範及ガイウス羅馬法解説成リ書房ヲシテ刊
行セシム(前書ハ大正六年六月後書ハ
同年八月訂正増補再版發行)

五月

大正四年度學術研究費補助ノ件ヲ議決ス

六月

院長幹事部長ノ改選ヲ行ヒ院長ニ理學博士男爵菊
池大麓幹事ニ理學博士櫻井錠二第一部々長ニ法學

同月

博士穗積陳重第二部々長ニ工學博士古市公威當選
シ文部大臣ノ認可ヲ經テ七月就任ス

同月

法律第十二號ヲ以テ帝國學士院學術獎勵金特別會
計法ハ大正四年度限り之ヲ廢止スル旨公布セラル

同月

法律第十三號ヲ以テ帝國學士院ニ於テ學術研究獎
勵ノ爲ニ要スル金額ハ之ヲ帝國學士院長ニ交付シ

七月

經理ヲ委任スルコトヲ得ヘキ旨公布セラル(施行期
大正五年四月一日)

十月

醫學博士理學博士野口英世へ恩賜賞ヲ子爵金允植
農學博士外山龜太郎へ各帝國學士院賞ヲ授與ス
男爵藤田平太郎ヨリ學術研究獎勵ノ爲獎學資金ト

大正四年

十一月

シテ金貳萬圓羅馬法研究出版費トシテ金貳千圓各寄附致度旨申出アリ之ヲ受諾スルコトニ議決ス

同月

御即位ノ大禮奉賀ノ爲賀表ヲ捧呈ス

十二月

院長理學博士男爵菊池大麓本院會員總代幹事理學博士櫻井錠二御即位ノ大禮式ニ參列ス

同月

東照宮三百年祭記念會ヨリ學術研究費ノ補助ヲ要スヘキモノ、推薦ノ依頼ヲ承諾スルコトニ議決ス

四月

文部大臣ノ認可ヲ經テ會則及授賞規則ヲ修正ス

同月

東照宮三百年祭記念會ヘ推薦スヘキ學術研究費補助ノ件ヲ議決ス

五月

大正五年度學術研究費補助ノ件ヲ議決ス

六月

三井合名會社々長男爵三井八郎右衛門ヨリ出版費トシテ金參千圓寄附致度旨申出アリ之ヲ受諾スルコトニ議決ス

大正五年

六年

同月

山下龜三郎ヨリ學術研究獎勵ノ爲向フ十箇年間毎

同月

年金壹千圓宛又ハ他ノ納付方法ニ依リ合計金壹萬圓寄附致度旨申出アリ之ヲ承諾スルコトニ議決ス

七月

臨時學術研究費補助ノ件ヲ議決ス

同月

大矢透文學博士林泰輔醫學博士稻田龍吉及井戸泰

同月

へ各恩賜賞ヲ、工學博士鳥潟右一、鯨井恒太郎、横山英

同月

太郎、北村政次郎及理學博士本多光太郎へ各帝國學

同月

士院賞ヲ授與ス

同月

立太子式奉賀ノ爲 天皇陛下并ニ皇太子殿下ニ賀

同月

表ヲ捧呈ス

同月

故桂公爵記念事業會總代男爵澁澤榮一ヨリ桂學術

同月

獎勵基金貳萬圓ヲ寄附致度旨申出アリ之ヲ受諾ス

同月

ルコトニ議決ス

同月

東照宮三百年祭記念會ヘ推薦スヘキ學術研究費補

大正六年		二月	三月	同月	同月	五月	七月	十月
助ノ件ヲ議決ス	藤田男爵獎學費給與ニ關スル決議ヲ議定ス	臨時學術研究費補助ノ件ヲ議決ス	伊能忠敬測地事蹟ノ調査成リ書房ヲシテ「伊能忠敬」ヲ刊行セシム	和算史調査事業ニ屬スル「方陣問題」ノ編纂成リ之ヲ刊行ス	大正六年度學術研究費補助ノ件ヲ議決ス	文學博士佐々木信綱、理學博士寺田寅彦へ各恩賜賞ヲ、理學博士眞島利行、理學博士西川正治へ各帝國學士院賞ヲ授與ス	院長理學博士男爵菊池大麓薨去セルニ付院長ノ補缺選舉ヲ行ヒ法學博士男爵穗積陳重當選シ文部大臣ノ認可ヲ經テ同月就任ス	

七年		二月	三月	四月	同月	十一月	四月	
東照宮三百年祭記念會へ推薦スヘキ學術研究費補助ノ件ヲ議決ス	會員理學博士藤澤利喜太郎著「諸外國學士院ノ組織及授賞制」ヲ再版發行ス	子爵夫人末松生子ヨリ羅馬法獎勵資金トシテ有價證券額面金五千百圓寄附致度旨申出アリ之ヲ受諾スルコトニ議決ス				故理學博士男爵菊池大麓ノ擔當セシ和算史ノ調査ヲ理學博士藤澤利喜太郎へ委囑スルコトニ議決ス	第一部々長法學博士男爵穗積陳重院長ニ就任セルニ付第一部々長ノ補缺選舉ヲ行ヒ文學博士井上哲次郎當選シ文部大臣ノ認可ヲ經テ同月就任ス	大正六年度羅馬法學獎學費(藤田男爵獎學費)給與ノ件ヲ議決ス

大正七年

四月
五月
六月
同月
七月

英國倫敦ニ於ケル聯合諸國サイエンティフィックアカ
デミース代表者會議ニ帝國學士院代表委員トシテ
會員理學博士櫻井錠二並ニ理學博士田中館愛橘ヲ
參列セシムル件ヲ議決ス
和田英松、木村泰賢、理學博士柴田桂太へ各恩賜賞ヲ
醫學博士理學博士桂田富士郎、醫學博士藤浪鑑へ各
帝國學士院賞ヲ、法學博士瀧本誠一へ桂公爵記念賞
ヲ授與ス
大正七年度學術研究費補助ノ件ヲ議決ス
院長幹事部長ノ改選ヲ行ヒ院長ニ法學博士男爵穗
積陳重、幹事ニ理學博士櫻井錠二、第一部々長ニ文學
博士井上哲次郎、第二部々長ニ工學博士古市公威當
選シ文部大臣ノ認可ヲ經テ七月就任ス
子爵夫人末松生子寄附羅馬法奨勵資金ノ使途ニ關

大正七年

十六月
九月
十月
同月
十月
同月
十一月
十二月

スル決議ヲ議定ス
大正七年度羅馬法學獎學費(藤田男爵獎學費)給與ノ
件ヲ議決ス
故遠藤利貞著「日本數學史」ヲ增修刊行ス
帝國學士院紀事第一卷第五ヲ發行ス
大正七年度採鑛冶金學及關係學科奨勵費(藤田男爵
獎學費)給與ノ件ヲ議決ス
大正七年度子爵夫人末松生子羅馬法獎學品贈與ノ
件ヲ議決ス
文部大臣ノ認可ヲ經テ會則ヲ修正ス
會員理學博士櫻井錠二、理學博士田中館愛橘、倫敦及
巴里ニ於ケル萬國學術研究會議設立ニ關スル會議
ニ帝國學士院代表委員トシテ參列ス
臨時學術研究費補助ノ件ヲ議決ス

大正八年

二月	東照宮三百年祭記念會へ推薦スヘキ學術研究費補助ノ件ヲ議決ス
三月	寄附金ヲ以テスル賞ニ關スル決議及學術研究費補助ニ關スル決議ヲ修正ス
同月	帝國學士院第一部論文集邦文第二號ヲ發行ス
五月	皇太子殿下御成年式奉賀ノ爲 天皇陛下并ニ皇太子殿下ニ賀表ヲ捧呈ス
同月	白耳義ブラッセルスニ於ケル萬國學術研究會議第一回總會ニ帝國學士院代表委員トシテ會員理學博士田中館愛橘ヲ參列セシムル件ヲ議決ス
同月	大正八年度學術研究費補助ノ件及臨時學術研究費補助ノ件ヲ議決ス
同月	理學博士石原純へ恩賜賞ヲ高田忠周醫學博士山極勝三郎獸醫學博士市川厚一及石川登喜治へ各帝國

大正八年

六月	學士院賞ヲ授與ス
同月	學術研究會議設立ニ關スル建議書ヲ内閣總理大臣並ニ文部大臣ニ提出ス
同月	佛國巴里ニ於ケルユニオンアカデミックノ組織ニ關スル會議ニ帝國學士院代表委員トシテ會員文學博士高楠順次郎并ニ法學博士小野塚喜平次ヲ參列セシムル件ヲ議決ス
七月	大正八年度羅馬法學獎學費並ニ採鑛冶金學及關係學科獎勵費藤田男爵獎學費給與ノ件ヲ議決ス
十一月	大正八年度子爵夫人末松生子羅馬法獎學品贈與ノ件ヲ議決ス
一月	次ノ各御沙汰書ヲ拜受ス

其院去ル明治四十三年授賞ノ制設定ニ際シ賞典

大正九年	二月	二月	二月
	二月	二月	二月
	二月	二月	二月

資トシテ十ヶ年間年々金貳千圓下賜ノ處成績顯著ニ付大正九年度以降引續十ヶ年間年々下賜候事

大正九年一月七日 宮内省

帝國學士院

其院學術研究ノ資トシテ金壹萬圓下賜候事

大正九年一月七日 宮内省

白耳義ブラッセルスニ於ケル第一回萬國學士院聯合會會議ニ帝國學士院代表委員トシテ會員文學博士服部宇之吉并ニ法學博士織田萬參列ノ件ヲ議定ス

東照宮三百年祭記念會ヘ推薦スヘキ學術研究費補助ノ件ヲ議決ス

帝室制度ノ歴史的研究ヲ本院ノ事業トシテ遂行スル件ヲ議決シ會員法學博士岡野敬次郎(主任)文學博

大正九年	八月	七月	五月	四月	三月	二月	一月	同月
	八月	七月	五月	四月	三月	二月	一月	同月
	八月	七月	五月	四月	三月	二月	一月	同月

士三上參次法學博士美濃部達吉ヲ擔當委員ニ選定シ後更ニ文學博士服部宇之吉ヲ追加選定ス

大正九年度學術研究費補助ノ件ヲ議決ス

文學博士三浦周行及工學博士辻本滿丸ヘ各恩賜賞ヲ大村西崖及理學博士藤原咲平ヘ各帝國學士院賞ヲ理學博士早田文藏ヘ桂公爵記念賞ヲ授與ス

大正九年度羅馬法學獎學費並ニ採鑛冶金學及關係學科獎學費(藤田男爵獎學費)給與ノ件ヲ議決ス

曩ニ總理大臣並ニ文部大臣ニ建議セル學術研究會議設立ノ件ニ就キ政府當局ニ於テ審議ヲ遂ケ勅令第二百九十七號ヲ以テ其ノ官制ヲ制定公布セララル

大正九年度子爵夫人末松生子羅馬法獎學品贈與ノ件ヲ議決ス

工學博士男爵古市公威外九十三名ニ對シ學術研究

大正十年

十二月	會議會員仰付ケラル
十一月	學術研究會議第一回總會ヲ文部省内ニ招集シ會長及副會長ノ選舉ヲ行ヒタル結果會長ニ工學博士男爵古市公威副會長ニ理學博士櫻井錠二當選即日文部大臣ノ認可ヲ經テ就任セルニ付院長法學博士男爵穂積陳重ハ會長工學博士古市公威ニ對シ學術研究會議ニ關スル事務ノ引繼ヲ了ス
八月	其院學術研究ノ資トシテ金壹萬圓下賜候事
十月	大正十年一月十日
正月	白耳義ブラッセルスニ於ケル第二回萬國學士院聯合會議ニ帝國學士院代表委員トシテ會員法學博士岡松參太郎並ニ文學博士三上參次ヲ參列セシムル
同月	

大正十年

二月	件ヲ議決ス
三月	東照宮三百年祭記念會ヘ推薦スハキ學術研究費補助ノ件ヲ議決ス
四月	大正十年度學術研究費補助ノ件ヲ議決ス
五月	文學博士辻善之助及醫學博士布施現之助ヘ各恩賜賞ヲ理學博士松本彦七郎及工學博士倭國一ヘ各帝國學士院賞ヲ藥學博士田原良純ヘ桂公爵記念賞ヲ授與ス
六月	院長幹事部長ノ改選ヲ行ヒ院長ニ法學博士男爵穂積陳重幹事ニ理學博士櫻井錠二第一部々長ニ文學博士井上哲次郎第二部々長ニ理學博士藤澤利喜太郎當選シ文部大臣ノ認可ヲ經テ七月就任ス
同月	大正十年度採鑛冶金學及關係學科獎學費藤田男爵獎學費給與ノ件ヲ議決ス
同月	

大正十年

六月

七月

八月

九月

十月

十一月

十二月

大正十年度羅馬法學獎學費藤田男爵獎學費給與ノ件ヲ議決ス

皇太子殿下海外御巡遊ヨリ御歸還奉賀ノ爲賀表ヲ捧呈ス

三菱合資會社社長男爵岩崎小彌太ヨリ學術研究獎勵ノ爲賞典資トシテ大正十年ヨリ向フ十箇年間毎年金壹千圓ツ、合計金壹萬圓寄附致度旨申出アリ之ヲ受領スルコトニ議決ス

三井家總代男爵三井八郎右衛門ヨリ學術研究獎勵ノ爲第二部ニ屬スル賞典資トシテ大正十年ヨリ向フ十箇年間毎年金壹千圓ツ、合計金壹萬圓寄附致度旨申出アリ之ヲ受領スルコトニ議決ス

東照宮三百年祭記念會へ推薦スヘキ學術研究費補助ノ件ヲ議決ス

大正十一年

一月

二月

三月

四月

五月

六月

七月

八月

九月

十月

十一月

十二月

大正十一年

大正十年度子爵夫人末松生子羅馬法獎學品贈與ノ件ヲ議決ス

次ノ御沙汰書ヲ拜受ス

帝國學士院

其院學術研究ノ資トシテ金壹萬圓下賜候事

大正十一年一月十二日 宮内省

白耳義ブラッセルニ於ケル第三回萬國學士院聯合會會議へ帝國學士院代表委員トシテ會員文學博士井上哲次郎並ニ法學博士美濃部達吉ヲ參列セシムル件ヲ議決ス

白耳義ブラッセルニ於ケル白耳義學士院創立百五十年祝賀式へ帝國學士院代表委員トシテ文學博士井上哲次郎理學博士中村精男理學博士平山信並ニ法學博士美濃部達吉ヲ參列セシムル件ヲ議決ス

大正十一年

三月 四月 五月 六月

東京市上野公園ニ於テ開催セル平和記念東京博覽會ニ各授賞關係品其他ノ參考品ヲ出品ス
 松方公爵米壽祝賀會發起人總代法學博士男爵阪谷芳郎並ニ平山成信ヨリ松方公爵米壽祝賀記念獎學資金(後拾八萬圓ト決定)ヲ寄附致度旨申出アリ之ヲ受領スルコトニ議決ス
 松方公爵米壽祝賀記念獎學資金ノ使用方法ニ關スル決議條項ヲ議決ス
 大正十一年度學術研究費補助ノ件ヲ議決ス
 理學博士高嶺俊夫及理學博士吉田卯三郎へ各恩賜賞ヲ醫學博士清野謙次及工學博士末廣恭二へ各帝國學士院賞ヲ授與ス
 大正十一年度羅馬法學獎學費並ニ採鑛冶金學及關係學科獎學費(藤田男爵獎學費)給與ノ件ヲ議決ス

十一月

七月 十月 十一月 十二月 同月

財團法人原田積善會理事原田二郎ヨリ學術研究獎勵ノ爲大正十二年ヨリ向フ壹百箇年間毎年金壹萬圓ツ、合計金壹百萬圓ヲ寄附致度旨申出アリ之ヲ受領スルコトニ議決ス
 男爵住友吉左衛門ヨリ學術研究獎勵ノ爲大正十一年ヨリ向フ十箇年間毎年金壹千圓ツ、合計金壹萬圓寄附致度旨申出アリ之ヲ受領スルコトニ議決ス
 來朝中ノ獨逸科學者アインシュタイン博士歡迎會ヲ植物園ニ於テ舉行シ(歡迎の辭)ヲ贈呈ス
 大正十一年度子爵夫人末松生子寄附羅馬法獎學品贈與又ハ寄贈ノ件ヲ議決ス
 白耳義ブラッセルスニ於ケル第四回萬國學士院聯合會議並ニ第五回萬國史學會々議へ帝國學士院代表委員トシテ會員文學博士上田萬年並ニ法學博

大正十一年

大正十二年

一月	士立作太郎ヲ參列セシムル件ヲ議決ス 次ノ御沙汰書ヲ拜受ス 帝國學士院
二月	其院學術研究ノ資トシテ金壹萬圓下賜候事 大正十二年一月十一日 宮内省 高峰保全株式會社取締役鹽原又策ヨリ學術研究ノ 賞又ハ資ノ基金トシテ大正十二年ヨリ向フ五箇年 間毎年金五千圓ツ、合計金貳萬五千圓ヲ又三共株 式會社取締役鹽原又策ヨリ三箇年ニ涉リ金貳千圓 寄附致度旨申出アリ之ヲ受領スル事ニ議決ス 東照宮三百年祭記念會ヘ推薦スヘキ學術研究費補 助ノ件ヲ議決ス 男爵古河虎之助ヨリ學術研究獎勵ノ爲大正十二年 ヨリ向フ十箇年間毎年金壹千圓ツ、合計金壹萬圓

三月	寄附致度旨申出アリ之ヲ受領スルコトニ議決ス 寄附金ヲ以テスル賞ニ關スル決議、松方公爵米壽祝 賀記念獎學資金ニ關スル決議及學術研究補助ニ關 スル決議ヲ修正ス
四月	松方公爵米壽祝賀會發起人總代平山成信ヨリ松方 公爵米壽祝賀記念獎學資金ノ利子ニ加ヘ獎學ノ目 的ニ使用スル爲金五千四百五拾四圓ヲ寄附致度旨 申出アリ之ヲ受領スルコトニ議決ス
同月	山下龜三郎ヨリ國際關係ノ學事費ニ充ツル爲大正 十二年ヨリ向フ十箇年間毎年金壹千圓ツ、合計金 壹萬圓ヲ寄附致度旨申出アリ之ヲ受領スルコトニ 議決ス
四月	大正十二年度學術研究費補助ノ件ヲ議決ス
五月	德富猪一郎、柿村重松、藥學博士朝比奈泰彥、理學博士

大正十二年

六月

木下季吉へ各恩賜賞ヲ授與ス
子爵夫人末松生子寄附ニ係ル大正十二年度羅馬法
獎學品贈與又ハ寄贈ノ件ヲ議決ス

同月

大正十二年度羅馬法學獎學費並ニ採鑛冶金學及關
係學科獎學費藤田男爵獎學費給與ノ件ヲ議決ス

同月

松方公爵米壽祝賀會殘務整理委員男爵阪谷芳郎ヨ
リ松方公爵米壽祝賀記念獎學資金ノ一部トシテ金
五百六拾圓ヲ寄附致度旨申出アリ之ヲ受領スルコ
トニ議決ス

九月

大震災災ノ爲本院會議室ノ一部ヲ日本赤十字社福
島支部救護班執務ノ爲提供シ尙罹災者收容ニ充ツ

十一月

大阪毎日新聞社長本山彦一ヨリ東宮御成婚記念學
術獎勵資金トシテ大正十三年ヨリ向フ十箇年間毎
年金壹萬圓ツ、合計金拾萬圓ヲ寄附致度旨申出ア

十三年

十二月

リ之ヲ受領スルコトニ議決ス
寄附金ヲ以テスル賞ニ關スル決議ヲ修正ス
大阪毎日新聞社長本山彦一寄附東宮御成婚記念學
術研究資金ノ使途ニ關スル條項ヲ議決ス
白耳義ブラツセルスニ於ケル第五回萬國學士院聯
合會々議、帝國學士院代表委員トシテ會員文學博
士松本亦太郎並ニ在歐會員法學博士織田萬ヲ參列
セシムル件ヲ議決ス
次ノ御沙汰書ヲ拜受ス
帝國學士院

同月

其院學術研究ノ資トシテ金壹萬圓下賜候事
大正十三年一月九日 宮内省
第五回萬國學士院聯合會々議本院代表委員織田會
員後任トシテ在白日本大使法學博士安達峰一郎ニ

大正十三年

同月

大正十三

一月

參列ヲ委囑スヘキ件ヲ議決ス
東照宮三百年祭記念會ヘ推薦スヘキ學術研究費補助ノ件ヲ議決ス

同月

東宮殿下御慶事奉祝ノ爲ニ天皇陛下並ニ東宮殿下ニ賀表ヲ捧呈ス

十三

四月

大正十三年度學術研究費補助ノ件ヲ議決ス

五月

故文學博士八代國治醫學博士佐々木隆興ヘ各恩賜賞ヲ法學博士左右田喜一郎醫學博士川村麟也農學博士鈴木梅太郎高橋克己ヘ各帝國學士院賞ヲ木崎愛吉ヘ桂公爵記念賞ヲ廣瀨治兵衛清水武雄醫學博士田代四郎助ヘ各大阪毎日新聞東京日日新聞寄附東宮御成婚記念賞ヲ授與ス

同月

院長幹事部長ノ改選ヲ行ヒ院長ニ法學博士男爵穂積陳重幹事ニ理學博士櫻井錠二第一部々長ニ文學

同月

博士井上哲次郎第二部々長ニ醫學博士佐藤三吉當選シ文部大臣ノ認可ヲ經テ七月就任ス

六月

大正十三年度羅馬法學獎學費并ニ採鑛冶金學及關係學科獎學費藤田男爵獎學費給與ノ件ヲ議決ス

大正十四

十二月

米國人メンデンホールヨリ學術獎勵資金トシテ米貨二千五百弗寄附致度旨申出アリ之ヲ受領スルコトニ議決ス

一月

白耳義ブラッセルスニ於ケル第六回萬國學士院聯合會々議ヘ帝國學士院代表委員トシテ會員法學院

大正十四年

一月 十二月 同月 同月 同月 同月 同月

士福田德三并ニ在歐會員法學博士織田萬ヲ派遣シ
 更ニ在白日本大使法學博士安達峯一郎ニ本院代表
 委員ヲ委囑シ右會議ヘ參列ヲ請フヘキ件ヲ議決ス
 學界ノ代表者カ適當ニ貴族院議員ニ勅選セラルハ
 様政府當局者ニ進言スルコトヲ院長ニ委任スヘキ
 コトヲ議決ス
 東照宮三百年祭記念會ヘ推薦スヘキ學術研究費補
 助事項ノ件ヲ議決ス
 次ノ御沙汰書ヲ拜受ス
 帝國學士院
 其院學術研究ノ資トシテ金壹萬圓下賜候事
 大正十四年一月二十一日 宮内省
 大正十四年度學術研究費補助ノ件ヲ議決ス
 左ノ三件ヲ議決ス

會員ノ定員六十人ヲ百人トシ第一部五十人第二
 部五十人トスルコト
 各部ニ於テ分科ヲ設クルコト
 分科ノ數及種類ハ各部ニ於テ之ヲ定メ總會ノ承
 認ヲ經ルコト
 會員推選ニ關スル臨時手續ノ件ヲ議決ス
 歐文記事出版ノ新計畫ニ關スル件ヲ議決ス

第一 帝國學士院規程

勅令第四百十九號(明治三十九年六月十二日)

帝國學士院規程

第一條 帝國學士院ハ文部大臣ノ管理ニ屬シ學術ノ發達ヲ圖リ教化
 ヲ裨補スルヲ以テ目的トス
 第二條 帝國學士院會員ハ帝國學士院ニ於テ碩學中ヨリ推選シ勅旨

ヲ以テ之ヲ命ス
 第三條 外國人ニシテ帝國ニ於ケル學術ノ發達ニ關シ特別ノ功勞アル者ハ帝國學士院ニ於テ之ヲ客員ト爲スコトヲ得
 第四條 帝國學士院ハ左ノ二部ニ分チ會員ハ各專攻ノ學科ニ依リテ之ニ分屬ス

第一部 文學及社會的諸學科

第二部 理學及其ノ應用諸學科

第五條 帝國學士院會員ノ定員ハ六十人トス
 第六條 帝國學士院ハ會議ヲ開キ學術及教化ニ關スル事項ヲ審議ス會議ハ總會及部會トス
 第七條 帝國學士院會員ハ專攻ノ學科ニ付論文ヲ提出シ又ハ報告ヲ爲スモノトス
 第八條 帝國學士院ハ學術ニ關スル論文考案資料等ヲ募集スルコトヲ得

第九條 帝國學士院ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ外國ニ於ケル學術上ノ團體ト共同シテ研究ヲ爲シ又ハ其ノ會員トナルコトヲ得

第十條 文部大臣ハ學術及教化ニ關スル事項ニ付帝國學士院ニ諮詢スルコトヲ得

第十一條 帝國學士院ハ少クトモ毎年一回院務ニ關スル報告書ヲ文部大臣ニ提出スヘシ

第十二條 帝國學士院ニ院長一人幹事一人及部長二人ヲ置ク

院長及幹事ハ總會ニ於テ部長ハ部會ニ於テ會員中ヨリ之ヲ互選シ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十三條 院長ハ院務ヲ總理シ總會ニ於テ其ノ議長ト爲ル

院長事故アルトキハ幹事其ノ職務ヲ代理ス
 幹事ハ院長ノ指揮ヲ受ケ院務ヲ掌理ス
 部長ハ院長ノ指揮ヲ受ケ部務ヲ掌理シ部會ニ於テ其ノ議長ト爲ル

第十四條 院長幹事及部長ニハ手當ヲ支給スルコトヲ得

第十五條 滿六十歳以上ノ會員ニハ特ニ年金ヲ給スルコトヲ得

第十六條 帝國學士院ニ書記四人ヲ置キ文部省所屬ノ判任官ヲ以テ之ニ充ツ

書記ハ院長幹事部長ノ命ヲ受ケ庶務ニ従事ス

書記ニハ手當ヲ給スルコトヲ得

第十七條 學術上ノ調査ノ爲會員中ニ於テ擔當者ヲ定メタルトキハ手當ヲ給スルコトヲ得

第十八條 帝國學士院ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ會則ヲ定ムルコトヲ得

附 則

第十九條 東京學士會院規程及東京學士會院規程補則ハ之ヲ廢止ス

第二十條 本令施行ノ際東京學士會院會員及客員タル者ハ本令ノ規定ニ依リ帝國學士院會員及客員タル者トス

第二十一條 東京學士會院規程第五條ニ依リテ年金ヲ受クル者ハ本

令施行ノ後仍同額ノ年金ヲ受ク

第二十二條 本令ノ規定ニ依リ帝國學士院長ノ就任スルニ至ル迄ハ元東京學士會院會長ニ於テ幹事及部長ノ就任スルニ至ル迄ハ東京學士會院幹事ニ於テ其ノ職務ヲ行フヘシ

(參照)

勅令第二百六十四號 (明治二十三年十月二十五日官報)

東京學士會院規程

第一條 東京學士會院ハ學藝ノ品位ヲ高クシ以テ教化ノ裨補ヲ謀ランカ爲ニ設クル所ニシテ文部大臣ノ管轄ニ屬ス

第二條 東京學士會院ハ春徳碩學ノ中ヨリ選出セラレタル會員ヲ以テ組織ス其選出ノ方法及人員左ノ如シ

一 帝室ノ特選ニ依ル會員十五名

二 會員ノ推選ニ依ル會員二十五名

會員ノ推選ニ依ルモノハ文部大臣ノ認可ヲ經ルヲ要ス

會員ハ終身トス

第三條 東京學士會院會員ハ各自専攻ノ學科ニ就キ論說ヲ述ヘ又學藝及教化ニ關スル事項ニ就キ報告スルモノトス

第四條 東京學士會院ハ學藝及教化ニ關スル事項ニ就キ文部大臣ヨリ諮問アルトキハ審議復申スルモノトス又會員各自意見アルトキハ會院ニ於テ審議シ文部大臣ニ開陳スルコトヲ得

- 第五條 東京學士會院會員滿六十歲以上ノ者十名以内ヲ限り特ニ各年金三百圓ヲ賜フコトアルヘシ
- 第六條 東京學士會院ニ會長一人幹事二人ヲ置ク
會長幹事ハ會員ノ互選ヲ以テ文部大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ定ム其任期ハ各一年トス但再選セララルコトヲ得
- 第七條 會長ハ文部大臣ノ監督ヲ受ケ院務ヲ統理シ議事アルトキハ議長ノ任ニ當ルモノトス會長事故アルトキハ幹事ノ内一人ヲ指定シテ其任務ヲ代理セシム
幹事ハ會長ヲ補佐シテ院務ヲ掌理ス
- 第八條 削除(二十六年勅令第五十九條ヲ以テ削除)
- 第九條 東京學士會院ニ書記二人ヲ置キ文部屬ヲ以テ之ニ兼補ス書記ハ會長及幹事ニ屬シテ庶務ニ従事ス
- 第十條 東京學士會院ハ文部大臣ノ許可ヲ得テ會則ヲ設クルコトヲ得

勅令第十七號(明治二十八年三月八日官報)

東京學士會院規程補則

外國ノ著徳碩學ニシテ特ニ帝國ニ對シ功勞アル者ハ會員ノ推選ニ依リ文部大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ客員ト爲ス
コトヲ得

第三 帝國學士院會則

明治三十九年七月一日議決同月四日文部大臣認可
 同四十年十二月十二日改正議決同月十九日文部大臣認可
 同四十年十一月十二日追加議決同月廿二日文部大臣認可
 大正五年三月十二日修正議決同月廿一日文部大臣認可
 大正七年十月十二日修正議決同月廿八日文部大臣認可

- 第一條 帝國學士院會員ノ定員ハ各部三十人トス
- 第二條 會員ヲ推選セントスルトキハ當該部會ニ於テ投票ヲ以テ先ツ候補者ヲ豫選シ其ノ量多數ヲ得タル者三人ヲ以テ候補者ト爲シ
候補者ニ缺員ヲ生シタル場合ニ於テハ補缺豫選ヲ行フ
候補者ニ付キ當該部會ニ於テ決選投票ヲ行ヒ外國ニ在リテ投票ヲ爲サ、ル者ヲ除キタル部會員三分ノ二以上ノ多數ヲ得タル者ヲ當選者トシ總會ノ認可ヲ經テ之ヲ會員ニ推選ス
前項ノ多數ヲ得タル者ナキトキハ更ニ決選投票ヲ行ヒ尙ホ當選者ヲ得ルコト能ハサル場合ニ於テハ候補者ノ改選ヲ行フ
- 第三條 候補者ノ豫選及會員ノ推選ハ少クトモ三週間以前院長ヨリ

之ヲ各會員ニ通知ス
 第四條 客員ヲ推舉セントスル者ハ當該部會員五人以上ノ賛成ヲ得
 テ部會ニ發議スルコトヲ得
 客員ノ選定ニ關シテハ第三條第三項及第三條ノ規定ヲ準用ス
 第五條 院長幹事及部長ノ選舉ハ最多數ノ投票ヲ得タル者ヲ以テ當
 選者トス
 院長幹事及部長ハ六月ニ之ヲ選舉シ七月ニ至テ就任ス但シ六月ニ
 選舉ヲ行フコト能ハサルトキハ遞次之ヲ繰延スルコトヲ得此場合
 ニ於テハ後任者ノ就任スルニ至ル迄仍前任者ニ於テ其ノ職務ヲ取
 扱フ後任者ノ任期ハ其ノ就任ノ時期ニ拘ラス七月ヨリ之ヲ起算ス
 第六條 投票ハ總テ無記名トス
 病氣其ノ他ノ事故ニ依リ出席スルコト能ハサル者ハ封書ヲ以テ投
 票スルコトヲ得

第七條 第二條第一項及第五條第一項ノ場合ニ於テ投票同數ナルト

キハ年長者ヲ以テ當選者トス
 第八條 總會ハ院長部會ハ部長之ヲ召集スニ依リ
 通常總會ハ毎月一回之ヲ開ク但シ八九兩月ハ開會セス
 院長ノ見込ニ依リ又ハ會員五人以上ノ請求アルトキハ臨時總會ヲ
 開クコトヲ得
 第九條 總會及部會ハ在東京會員ノ三分之一以上ニ相當スル出席員ア
 ルニアラサレハ議決ヲ爲スコトヲ得ス
 議決ハ出席員ノ過半數ニ依ル
 第十條 總會及部會ノ議長ハ議決ノ數ニ加ハラズ但シ可否同數ナル
 トキハ議長之ヲ決ス
 第十一條 帝國學士院規程第七條ノ論文ノ提出及報告ハ總會又ハ部
 會ニ於テ之ヲ爲スヘシ
 帝國學士院會員ニ非サル者ノ論文又ハ報告ハ會員之ヲ紹介シテ總
 會又ハ部會ニ提出スルコトヲ得

論文及報告ハ之ヲ印刷シテ學者學會學校等ニ配付スルコトアルヘシ
論文及報告ノ會議ハ傍聽ヲ許スコトアルヘシ

第十二條 總會又ハ部會ノ議決ニ依リ講演ヲ公開スルコトアルヘシ

第十三條 部會ハ總會ノ認可ヲ經テ部則ヲ定ムルコトヲ得

第十四條 部會ノ開會及議決ハ部長ヨリ之ヲ院長ニ報告スヘシ

第十五條 院長ハ毎年一回總會ニ於テ前一年間ノ院務ノ要項ヲ會員

ニ報告スヘシ

部長ハ毎年一回前一年間ノ部務ノ要項ヲ院長ニ報告スヘシ

第十六條 部長事故アルトキハ會員ノ一人ニ其ノ職務ヲ委託スルコ

トヲ得

第十七條 各部ニ於ケル會員ノ數二十五人ニ充ツルマテハ第二條及

第三條ノ規定ニ依ラス總會ニ於テ會員ニ推選スヘキ者ヲ選定ス

第十八條 院長幹事及部長ノ初回ノ選舉ハ明治三十九年七月ニ之ヲ
行フ

會則第九條ニ關スル決議 (大正元年十月十二日總會議決)

帝國學士院會則第九條第一項ハ總會又ハ部會ヲ開キ諸般ノ報告ヲ受
ケ及學術上ノ論文ノ提出アルヲ妨ケス

會則第十一條第二項ニ關スル決議 (大正五年三月十二日總會議決)

會則第十一條第二項ノ場合ニ於テハ本人ヲシテ論文又ハ報告ノ説明
ヲ爲サシムルコトヲ得

(參照)

東京學士會院會則(明治二十三年十一月九日議決同月廿六日文部大臣認可)

第一條 會長幹事ノ選舉並ニ會員ノ推選ハ投票ヲ以テス投票同數ナレハ年長者ヲ取ル

第二條 會長幹事ハ毎年十二月ニ於テ改選シ翌年一月ヨリ就職スルモノトス

第三條 會長幹事ハ發案討論ヲ爲スコト都テ會員ニ同シ

會長幹事議長ノ任ニ當ルトキハ可否ノ數ニ加ハラス但可否同數ノ場合ニ於テハ議長之ヲ決ス

第四條 會長幹事ノ選舉並ニ會員ノ推選ハ在京會員ノ投票ヲ以テス但缺席者モ之ニ加ヘルモノトス

- 第五條 會員ノ推選ハ先ツ在京會員ニテ投票シ其ノ投票最多數ノ三名ヲ取テ再ヒ投票シ最多數ヲ得タル者一人ヲ以テ當選者ト定ム但最多數ト雖投票數五點以下ナルトキハ之ヲ棄却シ更ニ改選ヲ爲ス
- 第六條 會員中右三名共ニ不適任ト認ムルカ若クハ其ノ學力人物等ヲ聞知セサルトキハ投票ヲ辭スル事ヲ得
- 第七條 投票ヲ辭シタル會員ノ數在京會員ノ三分ノ一以上ニ登ルトキハ選舉ヲ行ハス更ニ改選ヲ爲ス
- 第八條 當選者會員タルコトヲ辭スル者アルトキハ更ニ改選ヲナス
- 第九條 議事ノ可否ヲ決スルハ多數ニ依ル但在京會員二分一以上出席セサルトキハ可否ヲ決セス
- 第十條 會日ニハ講筵ヲ開キ公衆ノ參聽ヲ許スコトアルヘシ
- 第十一條 毎年一月ノ會日ニ於テ前會長前年ノ院務ノ要項ヲ報告ス
- 第十二條 會員ノ坐順變換ハ年二期(一月、七月)トシ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム但新任者ハ該一期間末坐トス
- 第十三條 通常毎月(八九兩月ヲ除ク)第二日曜日ヲ以テ會日ト定ム但事宜ニヨリ會日ヲ變更シ或ハ臨時會ヲ開クコトアルヘシ
- 第十四條 演述ノ筆記並ニ院務ノ要項等ハ時々之ヲ刊行シテ會員ニ頒チ併セテ世ニ公ニス

第四 帝國學士院授賞規則

明治四十三年十月十二日議決
 同月廿六日文部大臣認可
 大正五年三月十二日修正議決
 同年四月十一日文部大臣認可

第一條 帝國學士院ハ學術ノ研究ヲ獎勵スル爲本則ト定ムル所ニ依

- リ賞ヲ授ク
- 第二條 賞ハ特定ノ論文著書其ノ他特種ノ研究ニシテ其ノ成績卓絶ナルモノニ對シテ之ヲ授ク
- 第三條 賞ハ賞牌又ハ賞金トス但シ賞牌及賞金ハ併セテ之ヲ授クルコトヲ得
- 第四條 賞ハ帝國學士院會員ニ非サル者ニ之ヲ授ク
- 第五條 賞ヲ授クルハ推薦又ハ募集ニ依ル
- 第六條 帝國學士院會員授賞ノ推薦ヲ爲サムトスルトキハ毎年十一月其ノ所屬ノ部會ニ其ノ提議ヲ爲スヘシ但シ十一月部會ヲ開カサルトキハ遞次繰延フルコトヲ得
- 第七條 前項ノ提議ニハ當該部會員三人以上ノ賛成アルコトヲ要ス
- 第八條 部會ニ於テ論文等ヲ審査ニ付スヘキモノト議決シタルトキハ審査委員ヲ定ムヘシ

部會ニ於テ必要ト認ムルトキハ他ノ部ニ屬スル會員ニ審査委員ヲ囑託スルコトヲ得

第八條 審査委員ノ議決ハ多數決ニ依ル但シ審査委員ハ部會ニ於テ各其ノ意見ヲ述フルコトヲ妨ケス

第九條 審査委員ハ書面ヲ以テ審査ノ經過及結果ヲ部會ニ報告スヘシ

第十條 部會ニ於ケル擬賞ノ議決ニハ投票總數三分ノ二以上ノ賛成アルコトヲ要ス

第十一條 前條ノ規定ニ依リ擬賞ノ議決アリタルトキハ部長ハ審査報告書其ノ他擬賞ニ關スル一切ノ事項ヲ總會ニ提出シ其ノ議決ヲ經ヘシ

第十二條 擬賞ノ議決ヲ爲スニハ部長又ハ院長ニ於テ少クトモ三週間以前會議ノ目的ヲ會員ニ通知スヘシ

第十三條 擬賞ノ議決ニ付テハ投票ハ總テ無記名トス

恩賜賞牌



帝國學士院賞牌



縮尺五分之二

其一

賞記



帝國學士院ハ何誰ノ何々ニ對シ本院授賞規則第二條ニ依リ茲ニ恩賜賞牌及賞金ヲ授與ス

年 月 日
院 印

院長位勳爵氏名花押

割印番號

其二

賞記

帝國學士院ハ何誰ノ何々ニ對シ本院授賞規則第二條ニ依リ茲ニ帝國學士院賞牌及賞金ヲ授與ス

年 月 日
院 印

院長位勳爵氏名花押

割印番號

其三

賞記

帝國學士院ハ何誰ノ何々ニ對シ本院授賞規則第二條ニ依リ茲ニ大阪毎日新聞東京日日新聞寄附東宮御成婚記念賞牌及賞金ヲ授與ス

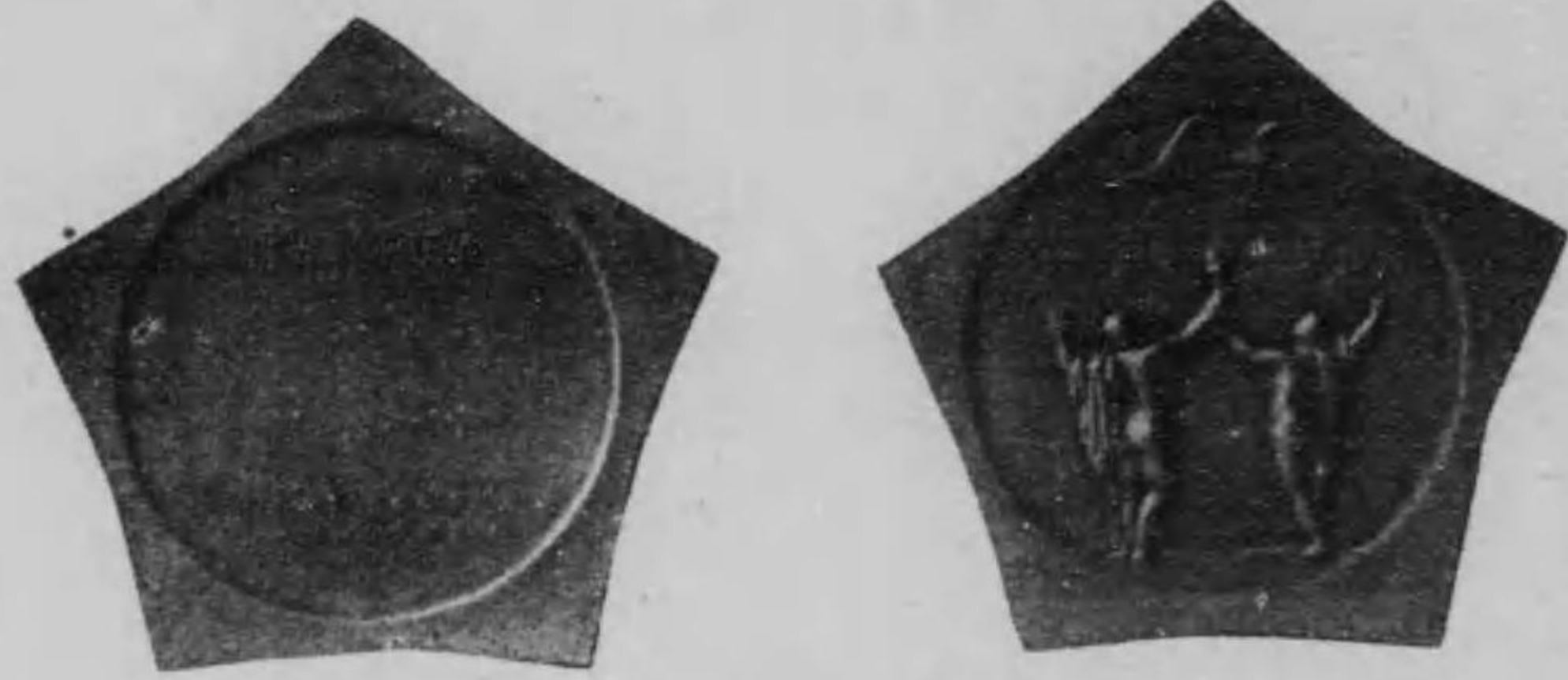
年 月 日
院 印

院長位勳爵氏名花押

割印番號

大阪毎日新聞東京日日新聞寄附

東宮御成婚記念賞牌



縮尺五分ノ三

病氣其ノ他ノ事故ニ因リ出席スルコト能ハサル者ハ封書ヲ以テ投票スルコトヲ得

第十四條 論文ヲ募集スル場合ニ於テハ其ノ都度部會ニ於テ募集ニ關スル事項ヲ定メ總會ノ議決ヲ經ヘシ

總會ノ議決アリタルトキハ帝國學士院募集ノ條件ヲ公示ス

第十五條 論文ノ募集了リタルトキハ部會ニ於テ審査委員ヲ定ムヘシ

第十六條 第七條第二項及第八條乃至第十三條ノ規定ハ論文募集ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十七條 賞ヲ受ケタル者ハ受賞ノ目的タル論文又ハ著書ニ其ノ旨ヲ表示スルコトヲ得

第十八條 賞ヲ授クヘキ者授賞推薦ノ提議アリタル後又ハ論文ノ募集ニ應シタル後死亡シタル場合ニ於テハ帝國學士院ハ授賞ノ旨ヲ公示シ且其ノ者ニ授クヘキ賞ノ處分ヲ定ム

第六條ノ規定ニ依リ

明治四十三年十一月ニ爲スヘキ授賞推薦ノ提議
ハ同四十四年三月之ヲ爲スコトヲ得

第五 恩賜賞ニ關スル決議

一 皇室ノ御下賜金ヲ以テスル賞ハ之ヲ恩賜賞ト稱スルコト

二 恩賜賞ノ數ハ毎年第一部第二部各一個トシ場合ニ依リ二個ニ等
分スルコトヲ得若シ其ノ年度内ニ授與シ了ラサルモノアルトキハ
之ヲ遞次繰越シ授與スルモ差支ナキコト

三 恩賜賞ハ賞牌ニ賞記及賞金ヲ添ヘテ之ヲ授クルコトヲ得

明治四十四年二月十二日總會決議
明治四十四年四月十二日總會決議

第六 寄附金ヲ以テスル賞ニ關スル決議

明治四十四年十一月十二日總會決議
同四十五年五月十二日總會決議
大正十二年三月十二日總會修正決議
同十二年十二月十二日總會修正決議

一 男爵三井八郎右衛門ヨリノ寄附金ヲ以テセル賞ハ第二部ニ於テ
毎年其ノ數ヲ一個トシ男爵岩崎久彌ヨリノ寄附金ヲ以テセル賞ハ
第一部第二部各隔年ニ一個トス但シ場合ニ依リテハ部ニ於テ之ヲ
分チ貳個以上ノ賞トスルコトヲ妨ケス

二 大阪毎日新聞社長本山彦一寄附東京御成婚記念學術獎勵資金ノ内
ヲ以テセル賞ハ之ヲ大阪毎日新聞東京日日新聞寄附東京御成婚記
念賞ト稱シ其ノ數ハ各部ヲ通シテ毎年四個トス
三 受賞者ナキトキハ之ニ對スル賞金ハ遞次翌年度ニ繰越シ之ヲ授與
スルコトヲ得
四 賞ハ賞牌ニ賞記及賞金ヲ添ヘテ之ヲ授ク

- 二 寄附ノ條件ニ依リ寄附金ヨリ生スル利殖金ヲ賞又ハ研究費補助トシテ使用スルコトヲ得ル場合ニ於テ之ヲ賞トスルトキハ其ノ數及ヒ所屬ハ總會ニ於テ之ヲ定ム
- 前項ノ賞ニシテ記念ノ趣旨ヲ表明スルコトヲ要スル場合ニハ之ヲ某記念賞ト稱シ賞金ニ賞記ヲ添ヘテ之ヲ授ク
- 三 二人以上共同ノ事業ニ對シテハ賞記ニ其ノ旨ヲ記シ各自ニ之ヲ授ク但シ賞金ハ分割セサルコトアルヘシ

第七 條件附寄附金ニ關スル決議

學術研究ノ獎勵ヲ目的トスル寄附金ノ使途ニ關シテハ總會又ハ部會ハ必要ナル審査及決議ヲ爲スベシ

(大正五年一月十二日總會議決)

第八 藤田男爵獎學費給與ニ關スル決議

(大正六年二月十二日總會議決)

- 一 男爵藤田平太郎寄附ノ獎學費ハ其ノ指定セラレタル用途ノ範圍ニ於テ有望ナル研究者ニ之ヲ與フ
- 二 獎學費ヲ受クヘキ者ノ選定ハ部會ノ決議ニ依ル部會ノ決議ハ部長之ヲ總會ニ報告ス
- 三 獎學費ヲ受タヘキ者ノ數ハ各部ニ於テ毎年之ヲ定ム
- 四 獎學費ハ一人一箇年金三百圓トス但シ更ニ其ノ支給ヲ繼續スルコトヲ得
- 四 獎學費ヲ受ケタル者ノ氏名ハ寄附者ニ之ヲ報告ス

第九 末松子爵夫人寄附羅馬法獎勵資金ノ使途ニ關スル決議

- 一 子爵夫人末松生子寄附羅馬法獎勵資金ハ其ノ利殖金ノ一部ヲ以

(大正七年七月十二日第一部會議決)
(大正十年十一月十二日第一部會議決)

一 羅馬法律書籍ヲ購入シ獎學品トシテ各官公私立大學中羅馬法ヲ教授セル各大學ノ大學院又ハ法科大學在學中ノ學生ニ與フルモノトス但シ適當ト認ムル他ノ學生ニ與フルコトアルヘシ
 尙ホ場合ニ依リ相當ノ圖書館ヲ選定シ之ニ寄贈スルコトヲ得
 利殖金ノ他ノ一部分ハ之ヲ積立テ羅馬法律書籍ノ出版費トシテ使用スヘキモノトス

二 獎學品ヲ受クヘキ者及書籍ヲ寄贈スヘキ圖書館ノ選定ハ第一部長ノ銓考ニ依ル但シ銓考事項ハ之ヲ部會及總會ニ報告スヘシ
 獎學品ヲ受クヘキ者及書籍ヲ寄贈スヘキ圖書館ノ數並ニ出版費トシテ積立テ置クヘキ金額ハ相當ノ範圍ニ於テ毎年之ヲ定ム
 三 獎學品ヲ受ケタル者ノ氏名及書籍ヲ寄贈シタル圖書館ノ名ハ之ヲ寄附者ニ報告スヘシ

第十 松方公爵米壽祝賀記念獎學資金

ニ關スル決議

(大正十一年四月十二日總會議決
 大正十二年三月十二日總會修正議決)

- 一 松方公爵米壽祝賀會寄附ノ獎學資金ハ寄附ノ條件ニ從ヒ元金ハ永ク保存シテ之ヲ利殖シ其ノ利子ヲ獎學費ニ充ツ
- 二 獎學費ハ主トシテ財政經濟農業及漢學ニ關スル學科ノ研究費、褒賞費、講義費、學生費、出版費等ニ充テ其ノ他本院ニ於テ適當ト認ムル事業費ニ之ヲ使用ス
- 三 獎學費使途ノ事項ニハ「松方記念」ノ稱ヲ冠ス
- 四 獎學費ノ使途並ニ其ノ受領者ノ選定ハ當該部會ノ決議ニ依ル部會ノ決議ハ部長之ヲ總會ニ報告ス
- 五 獎學費ヲ以テ施行シタル事項ハ毎年之ヲ松方公爵家ニ報告ス

第十一 大阪毎日新聞社長本山彦一寄附
東宮御成婚記念學術獎勵資金ノ
使途ニ關スル決議

(大正十二年十二月總會議決)

- 一 大阪毎日新聞社長本山彦一寄附東宮御成婚記念學術獎勵資金ノ内ヲ以テセル學術研究資金ニハ大阪毎日新聞東京日日新聞寄附東宮御成婚記念ノ稱ヲ冠シ該資金使途ノ事項ニハ之ニ依リタル旨ヲ表明スルコト
- 二 研究資金ヲ受クヘキ者ノ選定ハ都會ノ議ヲ經テ總會ニ於テ之ヲ決定ス
- 三 研究資金ヲ受ケタル者ノ氏名及研究事項ハ毎年之ヲ大阪毎日新聞東京日日新聞兩社ニ報告ス

第十二 學術研究費補助ニ關スル決議

(明治四十年七月十二日總會議決
大正八年三月十二日總會修正議決
大正十二年三月十二日總會修正議決)

- 一 會員ニシテ學術研究費ノ補助ヲ要スルコトアルトキハ研究ノ目的ヲ明記シ之ニ要スル概算費目ヲ二月末日マテニ部長ニ申出ツヘシ會員ニ非サル者ニ對スル學術研究費ノ補助ハ會員又ハ官公私立大學ノ總長若クハ學長ノ推薦ニ依ル
- 二 前項ノ推薦ハ院長ニ宛テ毎年二月末日迄ニ書面ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス
- 三 部長ハ委員若干名ヲ指名シテ前項ノ申出及推薦ヲ審査セシムヘシ
- 四 部長ハ審査委員會ヲ召集シ其ノ議長ト爲ル
- 五 審査委員會ノ決議ハ三月末日マテニ部長之ヲ院長ニ報告スヘシ
- 六 學術研究費ノ各補助額ハ院長幹事及部長ノ役員會議ニ於テ案ヲ

- 三 定メ四月ノ總會ニ於テ提出スヘシ但シ緊急ノ場合ニ於テハ院長ハ前二項ノ手續ニ依ラス部長ノ申請ニ因リ役員會議ニ於テ決定シ次回ノ總會ニ於テ之ヲ報告スヘシ
- 四 學術研究費ノ補助ヲ受ケタル者ハ研究結了後直ニ其ノ成績ヲ報告スヘシ
- 五 研究數年ニ涉ル場合ニ於テハ毎年十二月末日マテニ研究進行ノ狀況ヲ記載セル報告書ヲ部長ニ提出スヘシ
- 六 補助ヲ受ケタル研究ノ成績報告書ニハ本院ヨリ研究費ノ補助ヲ受ケタル旨ヲ明記スルコトヲ要ス

第十三 學術研究費補助推薦ニ關スル決議

(大正五年二月二十五日總會議決)

學術研究ノ獎勵ヲ目的トスル事業ニ關シ推薦ノ依頼ヲ承諾シタルトキハ總會又ハ部會ハ委員ヲ選出シ必要ナル審査ヲ爲サシメ其ノ結果

ニ依リ決議ヲ爲スヘシ

第十四 出版ニ關スル決議

明治四十年七月十二日總會議決
同年十一月十二日總會修正議決
同四十四年十一月十二日總會修正議決

- 一 毎年一回年報ヲ刊行シテ報告ヲ登載スヘシ
- 二 帝國學士院規程第七條第八條及帝國學士院會則第十一條第二項第十二條ニ依ル論文報告講演等ハ帝國學士院紀事又ハ別冊トシテ刊行スルコトヲ得
- 三 圖書又ハ論文ヲ編纂校訂翻譯若クハ謄寫セシメ又ハ之ヲ出版スルコトヲ得
- 四 第二項ニ掲ケタル論文報告及講演ヲ帝國學士院紀事又ハ別冊以外ニ掲載セントスルトキハ院長ノ許可ヲ經ルコトヲ要ス

第十五 帝國學士院紀事及別冊ノ出版ニ 關スル決議

(明治四十年十二月十二日總會議決
同四十四年十二月十二日總會修正議決)

- 一 帝國學士院紀事ハ集會ノ錄事及會員ノ提出セル論文報告書等ヲ
登載ス
 - 二 長編ノ論文報告書等ハ別冊トシテ隨時刊行シ其ノ概要ヲ紀事ニ
登載ス
 - 三 會員ニ非サル者ノ論文報告書等ニシテ會員ノ紹介ニ依リ提出セ
ラレタルトキハ之ヲ紀事又ハ別冊ニ掲クルコトアルヘシ
 - 四 既ニ他ニ出版セル論文報告書等ハ之ヲ紀事又ハ別冊ニ登載セス
但シ其ノ概要ヲ抄録スルハ此限ニアラス
 - 五 出版委員五名ヲ置キ出版ニ關スル事務ヲ委任ス
- 出版委員ハ論文報告書等ノ取捨節略ニ關シ疑アルトキハ之ヲ總會

又ハ部會ニ提出スルコトヲ得

- 六 出版委員ハ部ニ於テ各二名ヲ選出シ幹事ヲ以テ委員長トス

部選出ノ委員ハ其ノ任期ヲ三箇年トス

第十六 學術獎勵金

- 一 皇室御下賜金
- 二 右ハ皇室ヨリ學術研究御獎勵ノ思召ヲ以テ明治四十三年ヨリ十箇
年間年々金貳千圓ヲ下賜セラレ引續キ大正九年以降十箇年間年々
金貳千圓ヲ下賜セラレタルモノニシテ賞典費ニ充ツルモノトス
- 三 皇室御下賜金
- 四 右ハ大正九年一月同十年一月同十一年一月同十二年一月同十三年
一月皇室ヨリ學術研究御獎勵ノ思召ヲ以テ金壹萬圓ツ、ヲ下賜セ
ラレ更ニ大正十四年一月金壹萬圓ヲ下賜セラレタルモノニシテ學

術研究ノ資ニ充ツルモノトス

男爵三井八郎右衛門寄附金

右ハ男爵三井八郎右衛門ヨリ學術研究獎勵ノ爲明治四十四年ヨリ向フ十箇年間毎年金壹千圓宛合計金壹萬圓更ニ大正十年ヨリ向フ十箇年間毎年金壹千圓宛合計金壹萬圓ヲ寄附セルモノニシテ第二部ニ屬スル賞典費ニ充ツルモノトス

三菱合資會社寄附金

右ハ三菱合資會社々々長男爵岩崎久彌ヨリ學術研究獎勵ノ爲明治四十四年ヨリ向フ十箇年間毎年金壹千圓ツ、合計金壹萬圓更ニ同會社々々長男爵岩崎小彌太ヨリ大正十年以降十箇年間毎年金壹千圓ツ合計金壹萬圓ヲ寄附セルモノニシテ賞典費ニ充ツルモノトス
工學博士藥學博士高峰讓吉寄附金

右ハ大正元年工學博士藥學博士高峰讓吉ヨリ學術研究獎勵ノ爲金五千圓ヲ寄附シ其ノ使用方法ハ本院ニ一任セルモノニシテ元金ハ

之ヲ保存シ之ヨリ生スル利殖金ヲ一般學術研究費補助ニ充ツ

男爵住友吉左衛門寄附金

右ハ男爵住友吉左衛門ヨリ學術研究獎勵ノ爲大正元年ヨリ向フ十箇年間毎年金壹千圓ツ、合計金壹萬圓ヲ寄附シ其ノ使用方法ハ本院ニ一任セルモノニシテ之ヲ一般學術研究費補助ニ充ツ

男爵古河虎之助寄附金

右ハ男爵古河虎之助ヨリ學術研究獎勵ノ爲大正二年ヨリ向フ十箇年間毎年金壹千圓ツ、合計金壹萬圓更ニ大正十二年ヨリ向フ十箇年間毎年金壹千圓ツ、合計金壹萬圓ヲ寄附シ其ノ使用方法ハ本院ニ一任セルモノニシテ之ヲ一般學術研究費補助ニ充ツ

男爵藤田平太郎寄附金

右ハ大正四年男爵藤田平太郎ヨリ學術獎勵ノ爲メ金貳萬貳千圓ヲ寄附セルモノニシテ寄附ノ條件ニ依リ金貳千圓ヲ羅馬法學書出版費補助トシテ之ヲ使用シ金壹萬圓ヲ羅馬法學獎學資金トシ金壹萬

圓ヲ採辦冶金學及關係學科獎學資金トシ各學資金ヨリ生スル利殖
 金ヲ東京帝國大學及京都帝國大學ノ大學院又ハ分科大學在學中ノ
 學生ノ獎學費ニ充ツ

三井合名會社寄附金

右ハ大正五年三井合名會社々長男爵三井八郎右衛門ヨリ左ノ通り
 出版費トシテ金參千圓ヲ寄附セルモノナリ

山下龜三郎寄附金ノ一

右ハ山下龜三郎ヨリ學術研究獎勵ノ爲大正五年ヨリ向フ十箇年間
 毎年金壹千圓ツ、合計金壹萬圓ヲ寄附セルモノニシテ船舶航海其
 他之ニ關スル學術研究ノ資ニ充ツルモノトス

山下龜三郎寄附金ノ二

右ハ山下龜三郎ヨリ學術研究獎勵ノ爲大正十二年ヨリ向フ十箇年間每
 年金壹千圓ツ、合計金壹萬圓ヲ寄附セルモノニシテ國際關係ノ學
 事費ニ之ヲ使用スルモノトス
 故桂公爵記念事業會寄附金
 右ハ大正六年故桂公爵記念事業會總代男爵澁澤榮一ヨリ學術研究
 獎勵ノ爲金貳萬圓ヲ寄附セルモノニシテ寄附ノ條件左ノ如シ

元金ハ桂學術獎勵基金トシテ保存シ之ヨリ生スル利殖金ノ全部又
 ハ一部ヲ(一)學術研究ニ依リ社會ニ多大ノ貢獻ヲ爲シタリト認メラ
 ル、者ニ賞トシテ與フルカ又ハ(二)學術研究費補助トシテ之ヲ使用
 シ(三)孰レモ桂學術獎勵基金ニ據リタルコトヲ表明スルコト但シ場
 合ニ依リ(一)若クハ(二)ヲ選行シ又ハ二者ヲ併行スルハ帝國學士院ノ
 任意タルヘキコト

子爵夫人末松生子寄附金

右ハ大正七年子爵夫人末松生子ヨリ羅馬法獎勵資金トシテ有價證券額面金五千百圓ヲ寄附セルモノニシテ寄附ノ條件左ノ如シ
 資金ノ利殖金ヲ以テ毎年若干宛羅馬法律書ヲ購入シ適宜ノ方法ニ依リ可然學生ニ之ヲ分與シ又ハ場合ニ依リ相等ノ圖書館ヲ選定シテ之ニ寄贈スヘキコト尙ホ必要ノ場合ニハ右法律書ノ印刷費ニ充ツルコト

松方公爵米壽祝賀會寄附金ノ一

右ハ大正十一年松方公爵米壽祝賀會發起人總代男爵阪谷芳郎平山成信ヨリ學術研究獎勵ノ爲松方公爵米壽祝賀記念獎學資金トシテ金十八萬圓ヲ寄附セルモノニシテ寄附ノ條件左ノ如シ
 (一)本資金ハ適當ノ方法ヲ以テ之ヲ利殖スルコト
 (二)元金ハ永ク之ヲ保存シ其ノ利子ノミヲ使用スルコト
 (三)利子ハ主トシテ財政經濟農業及漢學ニ關スル研究ノ補助褒賞等ニ使用スルコト
 (四)前項以外タリト雖モ帝國學士院ニ於テ適當ト認ムル事業ニ利子ヲ使用スルハ

妨ケナキコト(五)利子ヲ以テ施行シタル事項ハ毎年之ヲ松方公爵家ニ報告スルコト

松方公爵米壽祝賀會寄附金ノ二

右ハ大正十二年四月松方公爵米壽祝賀會發起人總代平山成信ヨリ金五千四百五拾四圓ヲ寄附セルモノニシテ松方公爵米壽祝賀記念獎學資金ヨリ生スル利子ニ加ヘ獎學ノ目的ニ使用スルモノトス
 松方公爵米壽祝賀會寄附金ノ三

右ハ大正十二年五月松方公爵米壽祝賀會殘務整理委員男爵阪谷芳郎ヨリ金五百六拾圓ヲ寄附セルモノニシテ松方公爵米壽祝賀記念獎學資金ノ中ヘ加ヘ使用スルモノトス
 財團法人原田積善會寄附金

右ハ財團法人原田積善會理事原田二郎ヨリ學術研究獎勵ノ爲大正十二年ヨリ向フ壹百年間毎年金壹萬圓(四月及九月ノ兩期ニ分納)ツツ合計金壹百萬圓ヲ寄附セルモノニシテ寄附ノ條件左ノ如シ

(一) 金壹萬圓ノ内金貳千圓ハ之ヲ原田二郎獎學基金トシテ積立テ適當ノ方法ヲ以テ永遠ニ利殖スルコト但シ五十年後ニアリテハ右基金ヨリ生スル利子ヲ帝國學士院ニ於テ適宜使用スルモ妨ナキコト
 (二) 金壹萬圓ノ内金八千圓ハ毎年獎學ノ爲使用スルコト、ナシ其方法ハ總テ帝國學士院ニ一任スルコト
 (三) 本寄附金ニヨリ施行シタル事項ハ毎年之ヲ原田積善會ヘ報告スルコト

高峰保全株式會社寄附金

右ハ高峰保全株式會社取締役鹽原又策ヨリ學術研究獎勵ノ爲賞又ハ研究費ノ基金トシテ大正十二年ヨリ向フ五箇年間毎年金五千圓(二月及七月ノ二期ニ分納)ツ、合計金二萬五千圓ヲ寄附セルモノニシテ其ノ利殖金ヲ學術研究ノ賞又ハ資トシテ使用スルモノトス

三共株式會社寄附金

右ハ三共株式會社取締役鹽原又策ヨリ前記高峰保全株式會社寄附ニ係ル基金ノ利子ヲ大正十三年ヨリ金壹千圓ツ、使用シ得ル爲其

ノ不足補充ノ目的ヲ以テ大正十二年ヨリ三箇年ニ涉リ金貳千圓ヲ寄附セルモノナリ

大阪毎日新聞社長本山彦一寄附金

右ハ大阪毎日新聞社長本山彦一ヨリ學術獎勵ノ爲東宮御成婚記念學術獎勵資金トシテ大正十三年ヨリ向フ十箇年間毎年金壹萬圓ツツ合計金拾萬圓ヲ寄附セルモノニシテ寄附ノ條件左ノ如シ
 (一) 毎年金壹萬圓ノ中金四千圓ハ賞金トシ金六千圓ハ研究資金トシテ之ヲ使用セラレタキコト
 (二) 賞ハ大阪毎日新聞東京日日新聞寄附東宮御成婚記念賞ト稱シ賞牌及賞記ト共ニ全金壹千圓宛四人ニ之ヲ授與セラレタキコト但シ賞牌ノ制式ハ貴院ニ一任スルコト、シ其ノ作製ニ要スル費用ハ別ニ本社ヨリ之ヲ貴院ニ納付ス
 (三) 授賞者ナキトキハ賞金ノ一部又ハ全部ヲ遞次翌年ニ繰越シテ使用セラルルモ妨ケナキコト
 (四) 研究資金ノ使用方法ハ之ヲ貴院ニ一任スルモ該資金使途ノ事項ニハ大阪毎日新聞東京日日新聞寄附東宮御成婚

記念ノ稱ヲ冠セラレタキコト
メンデンホール寄附金

右ハ米國人故トーマス・メンデンホールノ遺言ニ因リ同人息チャールス・メンデンホールヨリ學術勵獎ノ爲大正十四年米貨二千五百弗ヲ寄附セシモノニシテ天文學及物理學ニ關スル獎學費ニ充ルモノトス

（以下は非常に小さい文字で記述された内容が続き、一部は読み取れず）

第十七 役員

大正六年十月二十日	院 長	法學博士男爵 穂 積 陳 重
同 七年七月一日	幹 事	理學博士 櫻 井 錠 二
同 十三年七月一日	第一部々長	文學博士 井 上 哲 次 郎
大正二年七月十一日	第二部々長	醫學博士 佐 藤 三 吉
同 四年七月一日		
同 七年七月一日		
同 十三年七月一日		
大正六年十一月廿四日		
同 七年七月一日		
同 十三年七月一日		
大正十三年七月一日		

第十八 會 員

明治三十九年六月十二日	第二部	醫學博士 三 宅 秀
同 十三年七月一日	第一部	文學博士 井 上 哲 次 郎

明治四十四年四月廿八日	第二部	理學博士	石川千代松
明治四十五年二月廿七日	第一部	文學博士	高楠順次郎
大正二年五月廿九日	第二部	法學博士	山崎覺次郎
大正四年三月廿四日	第一部	文學博士	芳賀矢一
大正六年六月廿二日	第一部	文學博士	服部宇之吉
同 年十二月廿六日	第二部	法學博士	小野塚喜平次
大正七年三月廿五日	第一部	文學博士	村上專精
同 年六月廿五日	第二部	醫學博士	伊藤隼三
同 年六月廿五日	第二部	理學博士	水野敏之
同 年六月廿五日	第一部	法學博士	織田菊萬
大正八年二月廿八日	第二部	理學博士	池田菊苗
同 年三月廿六日	第一部	文學博士	白鳥倉吉
同 年四月廿九日	第二部	醫學博士	山極勝三郎
同 年十二月五日	第一部	文學博士	松本文三郎

大正九年五月一日	第一部	法學博士	春木一郎
大正九年十月二十七日	第二部	理學博士	三好大學
同 年十一月廿九日	第一部	法學博士	立作太郎
同 年十二月二十七日	第二部	醫學博士	荒木寅三郎
大正十年一月廿四日	第一部	文學博士	松本亦太郎
大正十一年四月七日	第二部	理學博士	佐々木忠次郎
同	第一部	法學博士	福田德三
大正十一年十二月廿六日	第二部	理學博士	本多光太郎
大正十二年三月十日	第二部	工學博士	高松豐吉
大正十二年五月三日	第二部	醫學博士	宮入慶之助
大正十二年十一月十四日	第二部	醫學博士	野口英世
大正十二年十一月廿八日	第一部	文學博士	姉崎正治
大正十四年二月三日	第一部	法學博士	田島錦治
大正十四年四月八日	第一部	文學博士	市村瓊次郎

第十九 事務職員

大正十二年書目記

明治四十年六月十日

文部 佐原 茂一

大正十二年囑託

明治四十二年十二月八日

金坂 周次

大正十二年十二月八日

南雲 由松

第二十 事業擔當會員囑託員及出版委員

大正六年十月十二日

大正十四年二月十日

和算史調査

擔當會員 理學博士 藤澤利喜太郎

囑託

宇都宮 虎雄

大正十二年十一月廿一日

猪俣 一三

伊能忠敬測地事蹟調査

明治四十一年七月十二日

理學博士 長岡 半太郎

燃藜室記述調査

明治四十二年一月十二日

文學博士 坪井 九馬三

同 年一月廿三日

囑託

文學博士 今 西 龍

羅馬法ニ關スル書籍翻譯出版

明治四十二年一月十二日

法學博士 宮崎 道三郎

皇室制度ノ歴史的研究

大正九年三月十六日

擔當會員 主任 法學博士 岡野 敬次郎

同

文學博士 三 上 參次

同

法學博士 美濃 部 達吉

大正十一年二月廿五日	同	文學博士服部宇之吉
大正九年五月廿五日	囑託員	文學博士和田英松
大正九年五月廿五日	同	文學博士山本信哉
同 年九月六日	同	田邊勝哉
同 年十月五日	同	淺野長武
同	同	櫻井三秀
大正十一年二月十六日	同	諸橋轍次
大正十二年四月廿六日	同	龍崎
大正十三年十一月一日	同	芝井葛盛
大正十四年一月三十一日	同	黒井大圓
同	同	藤原猶雪
同	同	高橋隆三

我邦ト歐洲諸國トノ交通史料ノ蒐集及研究

大正十年五月 日	擔當會員	文學博士村上直次郎
大正十二年二月十三日	囑託員	文學博士村上直次郎

帝國學士院紀事及別冊ノ出版委員

大正二年七月十二日	委員長	醫學博士三浦謹之助
明治四十四年六月十二日	委員	醫學博士岡半太郎
大正三年六月十二日	同	理學博士岡半太郎
大正七年六月十二日	同	法學博士立作太郎
大正十年六月十二日	同	文學博士姉崎正治
大正十三年六月十二日	同	文學博士姉崎正治

第二十一 論文

提出年月日	題目	提出者
明治四十年四月十二日	本邦一部ノ重力ト地質構造ニ付	長岡半太郎

明治四年七月十二日	吾カ國體ト基督教 注意ノ練習ニ就テ	×加藤弘之
十月十二日	鼠毒症病原ニ就テ	×元良勇次郎
十二月十二日	「ゼーマン」效果ノ研究第一回報告	×緒方正規
明治五年三月十二日	「ゼーマン」效果ノ研究ニ關スル第二回報告	長岡半太郎
十月十二日	地震ノ度数ト等壓線ノ勾配トノ關係ニ就テ (田中館愛橘紹介講述)	長岡半太郎
十二月十二日	日本薔薇科植物篇ニ就テ (松村任三紹介講述)	寺田寅彦
同日	注意練習實驗ノ報告第二回	小泉源一
明治十三年二月十二日	地磁氣ノ細微變動ニ就テ	×元良勇次郎
五月十二日	水銀「スペクトル」線ノ複雑ナル構造ニ就キ	田中館愛橘
六月十二日		長岡半太郎

六月十二日	メツシナ大地震ノ概況	×大森房吉
七月十二日	伊能忠敬遺物ニ就キ	長岡半太郎
明治四十三年十二月十二日	恙蟲病々原ニ就テ	×緒方正規
明治四十四年二月二十日	熱化學的研究第一報告等溫測熱法 (櫻井錠二紹介講述)	×廣部一
六月十二日	神經ノ電氣刺戟ニ關スルネルンストノ論理ニ就テ	三浦謹之助
七月十二日	胎兒ニ關スル研究	×三浦守治
明治四十五年二月十二日	由井正雪事件ト徳川幕府ノ養子制度	穂積陳重
四月十二日	第一部論文集第一號ニ掲載 (「スペクトル」線ノ光ノ強弱ヲ測定スル方法ニ就キ)	長岡半太郎 高嶺俊夫

明治四十五年四月十二日

交叉スペクトルニ依リ陪線ノ眞偽ヲ判別スル方法

(長岡半太郎紹介講述)

和算史ノ一節

六月十二日

恙蟲病々原絲狀菌ニ就テ

「エシエロン」分光鏡ト「ルムメル」板ト比較ノ研究

大正元年十月十二日

間重新ノ橢圓起原ニ就テ(紀事第一卷第二掲載)

大正二年一月十二日

腸胃ノ運動

鼠咬症ノ病原並ニ其治療ニ就テ

三月十二日

恙蟲病原ノ絲菌並ニ其豫防ニ就テ

四月十二日

噴火性微動ニ就テ

長岡半太郎

高嶺俊夫

菊池大麓

×緒方正規

長岡半太郎

×菊池大麓

×三浦守治

×緒方正規

×緒方正規

×大森房吉

大正五年五月十二日

「エックス」線結晶體通過ニ就キ

(長岡半太郎紹介講述)

寺田寅彦

六月十二日

鐵磁性物體ノ高溫度ニ於ケル發熱現象ト其磁性變化

(長岡半太郎紹介講述)

本多光太郎

諸種干涉計ノ交叉ニ依テ生スル

「スペクトル」ト其利用ニ就キ

(長岡半太郎紹介講述)

長岡半太郎

大正二年十月十二日

代數的「キヨルベル」ニ於ケル「コン

グルメント」數ノ「クラス」ニ就キ

(藤澤利喜太郎紹介講述)

竹内端三

大正三年一月十二日

胎兒及初生兒ノ體溫

「アステラプテリジヤ」(しびれえひ)

ノ放電 (長岡半太郎紹介講述)

藤教篤

大正三年二月十二日

櫻島爆發ノ概況

三月十二日

X線ニ依リ金屬其他ノ物質ノ結晶的構造ノ研究
(長岡半太郎紹介講述)

五月十二日

「ネオン」光線ノ「ゼーマン」效果
(長岡半太郎紹介講述)

十月十二日

地球放電

十月十二日

責任論

大正四年一月十二日

蛙族ハ何故横隔膜ヲ有セサル乎

六月十二日

恙蟲病々原體ニ就テ
故矢頭良一發明早繰字引ニツキ
テ附計算器並ニ瓦斯「タルビン」考案ニツキテ
(スベクトル)線間ノ細微ナル共同

大正五年一月十二日

×大森房吉

×西川正治

高嶺俊夫

山田幸五郎

×田中館愛橘

×加藤弘之

×三浦守治

×緒方正規

×末松謙澄

五月十二日

關係ニ就キ
列車ノ抵抗ニ就キ(古市公威紹介)

十月十二日

地磁氣ノ急激ナル周期的變化ニ就キ
(長岡半太郎紹介)

十一月十二日

植物界ニ於ケル「フラヴォン」體ノ分布並ニ生理的意義

(櫻井錠二紹介)

柴田桂太

十二月十二日

木材腐朽菌ト古代建築ニ於ケル柱ノ穴ニ就キ
(古市公威紹介)

川村清一

大正六年二月十二日

長慶天皇ノ御歴代ニ加ヘ給フヘキ證據ニ就キ
(三上參次紹介)

×八代國治

藤澤利喜太郎

十二月十二日

代數的平均ニ就テ

大正七年一月十二日

植物界ニ於ケル「フラヴォン」體ノ分布並ニ生理的意義ニ關スル研

大正七年六月十二日

十月十二日

大正八年三月十二日

四月十二日

六月十二日

十月十一日

究第二報告 (櫻井錠二紹介)

癌種ノ人工的發生實驗成績ニ就

テ (三浦謹之助紹介)

戰時ニ於ケル米國學士院活動ノ

狀況 (古市公威紹介)

船舶ノ動搖ニ關スル實驗

諱ニ關スル疑 (古市公威紹介)

櫻島附近及本州中部ニ於ケル地

盤ノ高低變動

無線式電信電話 (古市公威紹介)

國語々原若干條

殷墟ヨリ發掘セラレタル龜甲獸

骨文字 (服部宇之吉紹介)

柴田桂太

山極勝三郎

市川厚一

澁澤元治

末廣恭二

穗積陳重

×大森房吉

×鳥瀉右一

大槻文彦

×林泰輔

十月十二日

大正九年二月十二日

四月十二日

六月十二日

十一月十二日

大正十年二月十二日

三月十二日

波濤上ニ於ケル動搖ノ爲誘起セ
ラルル船舶ノ旋回運動

(櫻井錠二紹介)

黑龍江流域ニ於ケル人類學的調

査 (井上哲次郎紹介)

北海道有珠山地方地盤垂直ノ變

動

新ニ發見セラレタル親鸞ノ眞蹟

(三上參次紹介)

諺文ノ起原

豆滿江畔ノ有史以前ニ就テ

(服部宇之吉紹介)

山西省道教石窟ノ發見及全真教

(井上哲次郎紹介)

末廣恭二

鳥居龍藏

×大森房吉

辻善之助

白鳥倉吉

鳥居龍藏

常盤大定

大正十年四月十二日

六月十二日

日本石器時代ノ齒ニ就テ
船舶ノ動搖ニ關スル研究

小金井良精

大正十一年七月十二日

十月十二日

支那古曆ノ淵源(井上哲次郎紹介)
支那古代ニ於ケル天文學ノ發達
(長岡半太郎紹介)

末廣恭二
飯島忠夫

十二月十二日

北樺太及黑龍江下流ノ民族ニ就
テ
(井上哲次郎紹介)

鳥居龍藏

十二月十二日

アインシュタイン氏相對性原理ノ
梗概

長岡半太郎

大正十二年一月十二日

四月十二日

「エスペラント」及「エスペラント」主
義ノ梗概 中村精男紹介
五辻宮ニ關スル新研究
(三上參次紹介)

小坂狷二
平泉澄

六月十二日

大正十三年三月十二日

十月十四日

十二月十二日

大正十三年一月十二日

二月十二日

三月十二日

四月十二日

五月十二日

船舶ノ動搖ニ關スル研究及船舶
ノ振動ニ就テ (×井口在屋紹介)
癩腫ニ關スル研究成績報告
今回ノ大震ニ就テ(中村精男紹介)
比例代表法ニ就テ
比例代表ノ一新案ノ豫備報告
比例代表ノ一新案ノ豫備報告(前
回ノ續キ)
同位元素(Isotops)ノ原子核(Atom-
icnuclei)振動
有史以前南北朝鮮ノ關係ニ就テ
(井上哲次郎紹介)
構造物ノ震動并ニ耐震ニ就テ
(古市公威紹介)

末廣恭二
山極勝三郎
今村明恒
美濃部達吉
藤澤利喜太郎
藤澤利喜太郎
長岡半太郎
鳥居龍藏
物部長穗

大正十三年六月十二日

十月十二日

同日

二月十二日

三月十二日

大正十四年一月十二日

二月十二日

三月十二日

日本石器時代人ノ埋葬狀態ニ就テ
船舶動搖ノ輕減裝置ニ就テ

(古市公威紹介)

小金井良精

水銀ノ變質ニ依ル金其ノ他ノ金
屬ノ成生ニ就テ

元良信太郎

寛文年間ノ切支丹處分附マルチ
リオノ勸メ

長岡半太郎

三階教ノ研究

(姉崎正治紹介)

姉崎正治

支那ノ古傳説ニ現ハレタル陰陽
五行説

矢吹慶輝

神佛分離事件ニ就テ

(村上專精紹介)

白鳥倉吉

神佛分離事件ニ就テ(前回ノ續キ)
(村上專精紹介)

辻善之助

辻善之助

四月十二日

家屋ノ動搖ニ就テ(古市公威紹介)

末廣恭二

第二十二出版

○假名遣沿革史料

明治四十二年三月發行

全壹冊

○帝國學士院紀事(英文)

明治四十五年三月發行

第一卷第壹

○帝國學士院紀事(英文)

大正二年三月發行

第一卷第貳

菊池大麓論文 間重新ノ橢圓起原ニ就テ

○帝國學士院第一部論文集(邦文)

大正二年六月發行

第一號

穗積陳重著 由井正雪事件ト徳川幕府ノ養子法

○帝國學士院紀事(英文)

大正二年十一月發行

第一卷第三

○帝國學士院第二部メモアル(英文)

大正二年十一月發行

第一卷第壹

長岡半太郎及高嶺俊夫論文 楷段格子及ルムメル板ヲ用ヒテ調
査シタル水銀線ノ構造

第二號 法學博士文學博士有賀長雄

第三號 富士川游者日本醫學史ニ對シ

第四號 公孫樹ノ精蟲ノ發見ニ對シ

第五號 蘇鐵ノ精蟲ノ發見ニ對シ

帝國學士院賞 第一號 (アドレナリン)ノ發見ニ對シ

大正二年七月五日 恩賜賞 第六號 村岡良弼著續日本後紀纂話ニ對シ

帝國學士院賞 第七號 腦神經起首ノ研究ニ對シ

帝國學士院賞 第二號 外部寄生性吸蟲類ノ研究ニ對シ

第三號 軍艦ノ設計殊ニ巡洋艦ノ設計ニ對シ

× 文學博士 有賀長雄

× 醫學博士 富士川游

× 理學博士 平瀬作五郎

× 理學博士 池野成一郎

× 藥工學博士 高峰讓吉

× 醫學博士 村上岡良弼

× 醫學博士 上坂熊勝

× 理學博士 五島清太郎

× 理學博士 近藤基樹

大正三年七月五日

恩賜賞 第八號 哺乳動物ノ心臟ニ於ケル刺戟傳導筋系統ノ研究ニ對シ

帝國學士院賞 第四號 竹添進一郎著左氏會誌ニ對シ

帝國學士院賞 第五號 力學研究ニ對シ

大正四年七月五日

恩賜賞 第九號 (スピロヘイタバリ)ノ研究ニ對シ

帝國學士院賞 第六號 金允植著雲養集ニ對シ

帝國學士院賞 第七號 蠶ノ遺傳研究ニ對シ

大正五年七月二日 恩賜賞 第十號 (假名ニ關スル研究ニ對シ)

第十號 (文學博士林泰輔著周公ト其時代ニ對シ)

× 醫學博士 田原淳

× 理學博士 竹添進一郎

× 理學博士 日下部四郎太

× 醫學博士 野口英世

× 子爵 金允植

× 農學博士 外山龜太郎

× 文學博士 大矢透

× 文學博士 林泰輔

受賞者

第十二號 黃疸出血性「スビロ」病ニ關スル共同研究ニ對シ

醫學博士

× 稻田龍泰

帝國學士院賞

第十三號 無線電信電話ニ使用スル電氣振動間隙ニ關スル研究ニ對シ

× 工學博士

島瀨右一

第十四號 著日本歌學史及和歌史ノ研究ニ對シ

文學博士

佐々木信綱

第十五號 方法及其說明ニ關スル研究ニ對シ

理學博士

寺田寅彦

第十六號 和同英松茸宸記集及同人著皇室御撰解題ニ對シ

文學博士

和田英松

大正六年七月一日

恩賜賞

第十七號 木村泰賢著印度六派哲學ニ對シ

理學博士

木村泰賢

第十八號 植物界ニ於ケル「ラゾオン」體ノ研究ニ對シ

理學博士

柴田桂太

帝國學士院賞

第十九號 瀧本誠一編日本經濟叢書ニ對シ

醫學博士

桂田富士郎

第二十號 置井ニ至ラントシエル物體ノ一線檢査ニ關スル研究ニ對シ

理學博士

瀧本誠一

大正七年五月十二日

恩賜賞

第二十一號 相對性原理萬有引力論及量子論ノ研究ニ對シ

理學博士

石原純

大正八年五月廿五日

恩賜賞

第二十二號 瀧本誠一編日本經濟叢書ニ對シ

法學博士

瀧本誠一

第二十三號 日本住血吸蟲病ノ研究ニ對シ

醫學博士

藤田富士郎

第二十四號 植物界ニ於ケル「ラゾオン」體ノ研究ニ對シ

理學博士

柴田桂太

帝國學士院賞

第二十五號 瀧本誠一編日本經濟叢書ニ對シ

醫學博士

藤田富士郎

桂公爵記念賞

第二十六號 瀧本誠一編日本經濟叢書ニ對シ

法學博士

瀧本誠一

恩賜賞

第二十七號 相對性原理萬有引力論及量子論ノ研究ニ對シ

理學博士

石原純

帝國學士院賞

受賞者

受賞者

第十七號 (漢字ノ研究(古籍篇))

第十八號 (瘡ノ研究ニ對シ)

第二十號 (滿他青銅其他ノ銅合金及鐵ノ鑄造ニ關スル研究ニ對シ)

大正九年五月三十日

恩賜賞

第二十號 (三浦周行著法制史之研究ニ對シ)

第二十一號 (脂油ノ研究ニ對シ)

帝國學士院賞

第二十一號 (大村西學著密教發達志ニ對シ)

第二十二號 (香ノ異常傳播ノ研究ニ對シ)

桂公爵記念賞

第二號 (臺灣植物ノ研究ニ對シ)

大正十年五月二十二日

一〇四

醫學博士

高田忠周

獸醫學博士

山極勝三郎

市川厚一郎

醫學博士

石川登喜治

文學博士

三浦周行

工學博士

辻本滿丸

理學博士

大村西崖

理學博士

藤原咲平

理學博士

早田文藏

恩賜賞

第二十二號 (辻善之助著日本佛教史之研究ニ對シ)

第二十三號 (關ノ解剖的研究ニ對シ)

帝國學士院賞

第二十三號 (「クモヒトデ」ノ研究ニ對シ)

第二十四號 (日本刀ノ研究ニ對シ)

桂公爵記念賞

第三號 (河豚ノ毒素ノ研究ニ對シ)

大正十一年五月二十一日

恩賜賞

第二十四號 (「スタルク」效果ノ研究ニ對シ)

第二十五號 (究ニ對シ)

帝國學士院賞

第二十五號 (主體染色法ニ就テノ研究ニ對シ)

第二十六號 (傳動軸ノ振レ計ノ研究ニ對シ)

文學博士

辻善之助

醫學博士

布施現之助

理學博士

松本彦七郎

工學博士

俵國一

藥學博士

田原良純

理學博士

高嶺俊夫

理學博士

吉田卯三郎

醫學博士

清野謙次

工學博士

末廣恭二

受賞者

一〇五

受賞者

大正十二年五月二十七日

恩賜賞

第二十六號 (德富猪一郎著近世日本國民史ニ對シ)

第二十七號 (柿村重松著本朝文粹註釋ニ對シ)

第二十八號 (漢藥成分ノ化學的研究ニ對シ)

第二十九號 (放射線ニ關スル研究ニ對シ)

大正十三年六月八日

恩賜賞

第三十號 (故八代國治著長慶天皇御即位ノ研究ニ對シ)

第三十一號 (蛋白質及之ヲ構成スルニ關スル研究ニ對シ)

帝國學士院賞

第二十七號 (左右田喜一郎著貨幣ノ價值并ニ經濟法則ノ論理的性質ニ對シ)

一〇六

德富猪一郎

柿村重松

朝比奈泰彦

木下季吉

八代國治

佐々木隆興

左右田喜一郎

川村麟也

鈴木梅太郎

高橋克己

第二十八號 (類脂肪體ノ研究ニ對シ)

第二十九號 (副營養素ノ研究ニ對シ)

第三十號 (桂公爵記念賞)

第四號 (木崎愛吉著大日本金貨史ニ對シ)

第一號 (廣瀬治兵衛著和鏡聚英續和鏡聚英ニ對シ)

第二號 (放射線ノ研究ニ對シ)

第三號 (神經組織ノ炭酸發生ニ關スル研究ニ對シ)

醫學博士 川村麟也

醫學博士 鈴木梅太郎

醫學博士 高橋克己

醫學博士 木崎愛吉

醫學博士 廣瀬治兵衛

醫學博士 清水武雄

醫學博士 田代四郎助

大坂毎日新聞 寄附東京御成婚記念賞
東京日日新聞

大正六年十二月 藤田男爵獎學費受費者

大正七年六月

受賞者 藤田男爵獎學費受費者

東京帝國大學法科大學法律學科學生

山路 鎮 夫

大正六年度及七年度羅馬法學獎學費
大正七年十月

京都帝國大學學院學生

栗生 武 夫

大正七年十月

東京帝國大學學院學生

辻村 太 郎

大正七年度探鑛冶金學及關係學科獎學費
大正八年七月

東京帝國大學法學部法律學科學生

永井 由 松

大正八年度羅馬法學獎學費

同

水野 伊 太 郎

同

黑田 鴻 五

大正八年度探鑛冶金學及關係學科獎學費

東京帝國大學學院學生

青山 秀 三 郎

同

京都帝國大學工學部探鑛冶金學科學生

澤村 宏

大正九年七月

大正九年度羅馬法學獎學費

東京帝國大學法學部法律學科學生

船田 享 二

大同十二年六月

同

京都帝國大學學院學生

栗生 武 夫

大正九年度探鑛冶金學及關係學科獎學費

東京帝國大學學院學生

青山 秀 三 郎

同

佐藤 才 止

大正十年七月

大正十年度羅馬法學獎學費

東京帝國大學學院學生

船田 享 二

大同

京都帝國大學法學部法律學科學生

中島 清 二

大正十年度探鑛冶金學及關係學科獎學費

東京帝國大學學院學生

佐藤 才 止

同

青山 秀 三 郎

同

大正十一年六月

京都帝國大學大學院學生
平社敬之助
倉內吟二郎

同

大正十一年度羅馬法學獎學費

東京帝國大學法學部法律學科學生
石井茂樹
入江俊郎

同

大正十一年度探鑛冶金學獎學費及關係學科

東京帝國大學大學院學生
青山秀三郎
平社敬之助

同

同

同

大正十二年六月

京都帝國大學大學院學生
倉內吟二郎
三好新八

大正十二年度羅馬法學獎學費

東京帝國大學法學部法律學科學生
富田六郎
京都帝國大學法學部法律學科學生

同

京都帝國大學法學部法律學科學生
近藤英吉

大正十二年度探鑛冶金學獎學費及關係學科

東京帝國大學大學院學生
池田三郎
鈴木醇

同

同

大正十三年六月

京都帝國大學大學院學生
松波秀利

大正十三年度羅馬法學獎學費

東京帝國大學大學院學生
武藤智雄

同

同

大正十三年度探鑛冶金學及關係學科獎學費

京都帝國大學大學院學生
田中周友
東京帝國大學大學院學生
池田三郎
京都帝國大學大學院學生
藤井寬

同

第二十五 子爵夫人末松生子羅馬法獎勵獎學品受品者

大正七年十一月

大正十年十一月

東京帝國大學法科大學法律學科學生

安岡正光 山路鎮夫

鈴木香市 坂千秋

大正九年十一月

東京帝國大學法科大學法律學科學生

黒入田鴻五 我妻榮

大正八年十一月

東京帝國大學法科大學法律學科學生

栗生武夫 末川博

大正七年十一月

東京帝國大學法科大學法律學科學生

田村德治 小栗栖國道

大正八年十一月

東京帝國大學法學部法律學科學生

水野伊太郎 永井由松

大正七年十一月

東京帝國大學法學部法律學科學生

堀五之介 船田亨二

大正六年十一月

東京帝國大學法學部法律學科學生

佐藤基 平野義太郎

大正五年十一月

東京帝國大學法學部法律學科學生

井上直三郎 水谷長三郎

大正四年十一月

東京帝國大學法學部法律學科學生

江村高行 藤井崇治

大正九年十一月

東京帝國大學大學院學生又ハ法學部法律學科學生

高木益太郎 吉田幸太郎

今津好孝 進藤馨

小牧義夫

勝本正晃 佐喜眞興英

井出正孝 伊藤香象

佐藤幸吉

京都帝國大學大學院學生又ハ法學部法律學科學生

淺見隆平 平田央

中島清二 位原覺

中野峰史 廣濱嘉雄

並川義隆 阪井貞一

濱田潔夫 水谷秀雄

大正十年十一月

大正十一年十一月

東京帝國大學法學部法律學科學生

杉村正	鈴木秀夫
山田義見	平井三
神古百市	松坂佐
井上萬壽藏	木內信胤
京都帝國大學法學部法律學科學生	
牧健二	宇佐美正祐
江口新	鮫島龍馬
綿谷清	森島龍
坂義彥	柴田義彥
江口定太郎	
東京帝國大學法學部法律學科學生	
引田重夫	水谷良一
竹谷源太郎	石井茂樹

大正十一年十二月

大正十二年六月

早稻田大學法學部法律學科學生

入江俊郎	岩松五良
片野重藏	板倉勝朝
高橋一郎	秋山五郎
土井健二	田中周友
後藤清	
早稻田大學法學部法律學科學生	
井上秀三	
同大學	
圖書館	
東京帝國大學法學部法律學科學生	
富田六郎	和田博雄
松岡平市	赤地芳雄
深澤家治	角井貞淑
工藤友惠	

大正十二年六月

大正十二年六月

大正十三年九月

京都帝國大學大學院學生又ハ法學部法律學科學生

黒田 覺

板木 郁郎

近藤 英吉

平野 勇左衛門

津田 東太郎

三宅 一郎

小田 春雄

早稻田大學法學部法律學科學生

白井 敬夫

法政大學

圖書 館

東京帝國大學法學部法律學科學生

小林 尋次

田中 市助

原田 慶吉

石井 三郎

赤木 曉

加藤 令造

京都帝國大學大學院學生又ハ法學部法律學科學生

磯崎 辰五郎

藤林 一郎

徐 家

桓 好

林 茂夫

畑 新太郎

吉田 義二

梶 敏樹

甲斐 瑞穂

中 川 毅

早稻田大學法學部法律學科學生

山本 稜威雄

中央大學法學部學生

中島 重德

永村 日出雄

第二十六 補助研究事項

大正十二年(機械貸付)

自明治四十一年至大正十年

微生物學ニ關スル研究

×醫學博士 緒方正規

「イオン」ノ熱化學ニ關スル研究

理學博士 櫻井 錠二

火山岩研究

理學博士 小藤 文次郎

「ゼーマン」效果ノ研究

（研究費補助）ニ關スル研究

自明治四十二年度至同四十四年度

自「哲學字彙編纂」大正十年

大正二年度

類聚古集ノ複寫

支那哲學研究材料

日本道德史料ノ研究

大正三年度

支那哲學研究材料

日本道德史料ノ研究

日本梵語史料研究

X線ト其利用方法ニ就キ研究

理學博士 長岡半太郎

（要求者）

文學博士 井上哲次郎

文學博士 上田萬年

X文學博士 星野恒

文學博士 井上哲次郎

X文學博士 星野恒

X文學博士 井上哲次郎

文學博士 高楠順次郎

X理學博士 長岡半太郎

緯度變化式ニ於ケルZ項ノ研究

大正四年度

X線ト其利用方法ニ就キ研究

新撰字鏡刊行

日本梵語學史料研究

日本道德史資料研究

大正五年度

日本道德史資料研究

梵文學史事項取調

本居宣長ノ日記及書翰蒐集整理

琵琶湖附近及濃尾地方ニ於ケル地盤ノ垂直變動調査

大正「ハンザキ」ノ發生研究鯨魚ノ腦及胎兒蒐集

X理學博士 長岡半太郎

理學博士 長岡半太郎

文學博士 大槻文彦

文學博士 高楠順次郎

X文學博士 井上哲次郎

X文學博士 井上哲次郎

文學博士 高楠順次郎

文學博士 上田萬年

X理學博士 大森房吉

理學博士 石川千代松

大正六年度

日本道德史資料研究

×文學博士 井上哲次郎

大矢透研究ノ音圖及手習歌詞考ノ刊行

文學博士 上田萬年

輪島ヨリ琵琶湖附近ニ亘ル地盤ノ垂直變動調査

×理學博士 大森房吉

「ハンザキ」ノ發生史研究、鯨腦及胎兒蒐集

理學博士 石川千代松

工學博士末廣恭二研究ノ船舶動搖及其防止方法ニ關スル實驗

工學博士 古市公威

大正七年度

日本道德史資料研究

×文學博士 井上哲次郎

山田孝雄研究ノ一切經音義出版

文學博士 上田萬年

釋大寂著梵語字書取調

文學博士 高楠順次郎

後藤朝太郎ノ文字ヲ主材トスル支那古代文化ノ研究

×文學博士 服部宇之吉

井上良介ノ雪舟研究

×文學博士子爵 末松謙澄

「ハンザキ」ノ發生研究、鯨腦及胎兒蒐集

理學博士 石川千代松

大正八年度

山田孝雄研究ノ一切經音義出版

文學博士 上田萬年

文學博士林泰輔ノ龜版骨版文字ノ研究

文學博士 服部宇之吉

諸橋轍次ノ經書ヲ中心トシテ支那社會組織ノ研究

文學博士 服部宇之吉

北海道有珠山附近地盤垂直變動調査

×理學博士 大森房吉

「ハンザキ」ノ發生研究

理學博士 石川千代松

坪井誠太郎ノ朝鮮嶺島地理及火山調査

理學博士 小藤文次郎

醫學博士山極勝三郎ノ癌ノ研究

理學博士 佐藤三吉

工學博士末廣恭二研究ノ船舶動搖及其防止方法ニ關スル研究

工學博士 古市公威

西村真次ノ古代船舶ノ研究
大正九年度

經書ヲ中心トシテ支那社會組織ノ研究

本邦王朝時代ニ於ケル漢文學上ノ著作ノ校訂並ニ註釋六國史ニ見ハレタル詔勅及奏議上表類ノ註釋

國文學書所在目錄編輯

信越激震地帯大町、松本、糸魚川間地盤垂直變動ノ調査

「ハンザキ」ノ研究

鯨ノ研究

光波長比較ニ關スル研究

大正十年度

昌平坂學問所ト林家トノ研究

朝鮮ノ文字及言語ノ性質ニ關スル研究

金魚ニ於ケル遺傳關係ノ研究

植物ノ遺傳ニ關スル研究

文學博士 芳賀 矢一

諸橋 轍次

小柳 司氣太

文學博士 芳賀 矢一

× 文學博士 大森 房吉

文學博士 石川 千代松

文學博士 石川 千代松

文學博士 長岡 半太郎

文學博士 高瀬 代次郎

文學博士 白鳥 倉吉

醫學博士 石原 誠

× 醫學博士 今井 喜孝

惡性腫瘍殊ニ肉腫ノ發生ニ關スル實驗的研究

癌腫ノ實驗的研究

廣島縣震災地方ニ於ケル地盤垂直變動調査

鯨魚ノ胎兒研究

「ハンザキ」ノ發生研究

大正十一年度

日本經濟叢書ノ索引ノ編纂出版

印度マヌ法典翻譯

本生話文學翻譯

正倉院御物蒙求老子經及興福院所藏古葉略類聚鈔ノ刊行

昌平坂學問所ト林家トノ研究

我邦ト歐洲諸國トノ交通史料ノ研究

日本古代船舶ニ關スル研究

醫學博士 緒方 真太郎

醫學博士 山極 勝三郎

× 醫學博士 大森 房吉

醫學博士 石川 千代松

醫學博士 石川 千代松

醫學博士 石川 千代松

醫學博士 瀧 本誠一

× 醫學博士 中野 義照

文學博士 長井 眞琴

文學博士 佐々木 信綱

文學博士 高瀬 代次郎

文學博士 三上 參次

文學博士 西村 真次

命魚ニ於ケル遺傳關係ノ研究

植物ノ遺傳ニ關スル研究

出雲國宍道ヨリ石見國濱田ニ至ル地盤ノ垂直變動調査

内腫發生ニ關スル實驗的研究

癌腫及肉腫ノ人工的發生ニ關スル實驗的研究

日本石器時代人骨ノ蒐集

大正「ハンザキ」ノ研究

鯨腦及胎兒蒐集

大正十二年度

徳川時代ノ諸侯ノ學術著作ニ就テ

正倉院御物蒙求、同老子零卷ノ撮影印行

昌平坂學問所ト林家トノ研究

本生經翻譯

醫學博士 石原誠

理學博士 三宅喜孝

×理學博士 大森房吉

醫學博士 緒方真太郎

醫學博士 山極勝三郎

醫學博士 小金井良精

理學博士 石川千代松

理學博士 石川千代松

醫學博士 福井久藏

文學博士 佐々木信綱

醫學博士 高瀬代次郎

醫學博士 長井眞琴

摩奴法典翻譯

道教ノ研究(主トシテ抱朴子ノ研究)

我邦ト歐洲諸國トノ交通資料ノ蒐集及研究

癌腫ニ關スル研究

杭體發生ニ由ル癌腫實驗的治療法ノ實驗

日本石器時代民族研究

生體ニ於ケル類脂肪體ノ臨床的研究

電流ニ因ル筋收縮ヲ無痛ナラシムル生理學的條件並ニ電流刺激ニ對スル知覺問題

神經系統ノ比較解剖學的研究

糖尿病ノ實驗的研究

白血球ノ生物學的研究

「ハンザキ」研究

中野義照

小柳司氣太

文學博士 村上直次郎

醫學博士 山極勝三郎

醫學博士 山極勝三郎

醫學博士 相原三郎

醫學博士 小金井良精

醫學博士 森半兵衛

醫學博士 石川憲夫

醫學博士 三浦謹之助

醫學博士 植松七九郎

醫學博士 佐武安太郎

醫學博士 綿引朝光

理學博士 石川千代松

未所屬榮養素ノ研究

長崎縣島原半島地方震災調査ニ關シ長崎港ヨリ
島原半島南西端口之津ニ至ル地盤垂直變動調査

α線ノ通路ニ於ケル原子的ノ諸現象

植物ノ遺傳ニ關スル研究

原子ノ「イオン」化状態ト輻射「スペクトル」トノ關係

胞子蟲類ニ據ル魚病

松方公爵米壽祝賀記念獎學資金ノ利子ヲ以テセルモノ

平安時代ニ於ケル社寺領ノ研究

江戸時代ニ於ケル諸大藩ノ財政ニ關スル研究

支那經濟史料ノ系統的編纂

- (一) 支那正史中食貨志ノ國譯
- (二) 同上ノ解説並ニ註釋
- (三) 同上中ノ地名人名ノ考證
- (四) 同上ノ索引ノ作製

醫學博士 柿内三郎

× 醫學博士 大森房吉

理學博士 木下山三郎

理學博士 三宅喜孝

今井喜孝

遠藤美壽

藤田經信

森谷秀亮

土屋喬雄

加藤繁

和田清

小野武夫

× 岡田秀夫

吉川祐輝

清野謙次

農學博士 吉川祐輝

醫學博士 清野謙次

西田宏

五味金平

宮良當壯

鳥山喜一

千輪浩

幣原(外四名) 堀

文學博士 高楠順次郎

大正十三年度

王子教育ニ關スル研究

明治年間日誌ノ編成

琉球諸島言語ノ研究

支那及朝鮮ニ於ケル渤海並金時代ノ史蹟踏査

練習効果ノ實驗的研究

おもろ双紙校訂出版

邦文マヌ法典校訂出版

「ドイツスタ」法典翻譯

大阪附近ニ於ケル地殼潮汐ノ研究

病態組織増殖ニ腫瘍組織増殖ノ病理ニ關スル研究

松方公爵米壽祝賀記念獎學資金ノ利子ヲ以テセルモノ

支那ノ家族主義並ニ家族制度ノ研究(支那留學)

護國學派ノ研究

五經索引ノ作製

大正十四年度

Ius Praetoriumノ研究

南洋及關領印度ニ於ケル宗教土俗ノ視察研究

外國人ノ神道研究ニ關スル資料蒐集

「歳事と國民性」ノ研究

癌腫ノ實驗的研究

法學博士

理學博士

醫學博士

春木一郎

長岡平太郎

志田順郎

藤浪茂樹

山口

岩橋

森本

入江俊郎

宇野圓空

櫻井

補永茂

山極勝三郎

微量藥物ノ生物學的作用ニ關スル研究

前庭迷路機能ノ研究

「アルコール」類ノ陽極及應

有機化合物ニ對スル過熱蒸氣ノ作用

本邦近海產鯨ノ種類、分布及ヒ其ノ形態

日本石器時代民族研究

強電磁力場ノ生物現象ニ及ホス影響ニ就テ

智能發育ニ伴フ神經系統殊ニ腦髓組織學的研究

比較腦脊髓解剖學

蚜蟲ノ生態ニ關スル研究

石油「ナフテン」酸ノ研究

醫學博士

醫學博士

理學博士

理學博士

理學博士

醫學博士

醫學博士

醫學博士

醫學博士

工學博士

真山下俊郎

高石武雄

星野貞次

安野吉郎

齋藤勤

皆川廣文

松井元興

小松茂

石川千代松

小金井良精

宮崎彪之助

平光吾一

工藤喬三

柴田文平

永田中彰一

「アミノ」酸無水物ノ合成及其分光化學的研究

「リソトプス」微ニヨル「アルコール」酸酢並ニ「フマルル」酸酸酢

麻疹ノ病原及ヒ豫防ニ關スル研究

甲殻類ノ發生

植物ノ遺傳ニ關スル研究

松方公爵米壽祝賀記念獎學資金ノ利子ヲ以テセルモノ

邦儲ノ著作ニカ、ル四書註釋ノ蒐集及研究

爾雅釋親ト儀禮喪服篇トニ於ケル親族ノ稱謂及組織ニ就イテ

支那ノ家族主義並ニ家族制度ノ研究(支那留學)

徳川時代ノ諸侯ノ學術著作ニ就イテ

理學博士 柴田雄一

農學博士 高橋偵造

醫學博士 草間滋

理學博士 寺尾新

理學博士 三宅驥一

關儀一郎

加藤常賢

山口察常

福井久藏

第二十七 東照宮三百年祭記念會へ

補助推薦ノ研究事項

大正五年四月推薦

「ワイル」氏病血清療法ニ關スル研究

人工的「パラバイオシス」ニ依ル内分泌ノ研究

上層氣流トZ項トノ關係ニ關スル研究

大正六年二月推薦

享保時代ヲ中心トシテ觀タル經濟事情ノ研究

明治憲政史ノ研究及編纂

繪卷物研究

腦神經解剖學研究

鉛蓄電池容量增加方法研究

大正七年二月推薦

(研究者)

醫學博士 稻田龍吉

醫學博士 谷津直秀

理學博士 木村榮

中村孝也

工藤武重

中野忠預

上野直昭

醫學博士 布施現之助

醫學博士 降矢芳郎

免疫體ノ化學的分離

德川時代貨幣制度ノ研究

突風ノ構造ニ關スル研究

大名所領沿革調査

太陽黑點ト「カルシウム、フロキエリ」トノ關係ノ研究

大正八年二月推薦

參觀交代制度ノ研究

「マイマイ」蛾ノ遺傳試驗

德川時代貨幣制度ニ關スル研究

煮沸免疫元ニ關スル研究

免疫體ノ化學的分離

醫學博士

醫學博士

醫學博士

醫學博士

文學博士

三田定一

淺田種基

古畑榮治

本庄榮治

寺田寅彦

坪井九馬三

喜田貞吉

早乙女清房

竹下昌淳

町田快郎

本庄榮治

鳥瀨隆三

淺田定一

緒方益雄

醫學博士

醫學博士

醫學博士

日光地方植物景觀ニ關スル研究

大正九年二月推薦

有史以前滿韓ノ研究

日光ニ於ケル神佛分離事件調査

煮沸免疫元ニ就テ

マイマイ蛾遺傳研究

日光地方植物景觀

免疫體ノ化學的分離

大正十年二月推薦

有史以前滿韓ノ研究

神佛分離事件調査

理學博士

文學博士

文學博士

文學博士

醫學博士

醫學博士

醫學博士

醫學博士

文學博士

文學博士

文學博士

草野俊助

鳥居龍藏

鳥居龍藏

辻村善一

鳥居龍藏

鳥居龍藏

鳥居龍藏

鳥居龍藏

鳥居龍藏

鳥居龍藏

鳥居龍藏

鳥居龍藏

鳥居龍藏

文選正文及六臣註ヲ諸本ニ據リテ比較研究シ定本ヲ作ルコト

東洋古代ノ天文ニ關スル材料蒐集
整理ノ研究

五辻宮ノ御事蹟ノ研究

免疫體ノ化學的分離ニ關スル研究

日光地方植物景觀ニ關スル研究

マイノ蛾遺傳研究

大正十一年十一月推薦

有史以前滿韓ノ研究

文選正文及六臣註ヲ諸本ニ據リテ比較研究シ定本ヲ作ルコト

神佛分離事件ノ調査

アイヌ文様ノ研究

文學博士

芝野六助

醫學博士

三田定一

理學博士

草野俊助

文學博士

鳥居龍藏

文學博士

村野六助

東洋古代ノ天文ニ關スル材料ノ蒐集
整理ノ研究

魚體ニ及ホス甲状腺線ノ影響ノ研究

藥物ノ藥効學的作用ニ對スル「コロイド」
ノ態度ニ關スル研究

胞子蟲類ニ據ル魚病ノ研究

筋緊張ノ高等中樞ニ關スル研究

電流ノ刺激作用研究

大正十二年一月推薦

五經文字九經字樣疏證ノ述作

琉球ヲ中心トシタル諸島ノ民間傳説ノ研究

東山時代ノ文化史の研究

日韓關係ノ有史以前研究

文選ノ研究

電流ノ刺激作用

文學博士

新城虎次郎

醫學博士

松尾俊一

醫學博士

藤田經信

醫學博士

吳田邦彦

文學博士

岡井慎吾

醫學博士

折口信夫

藥物ノ藥効學的作用ニ對スル「コロイド」ノ態度ニ關スル研究

醫學博士 松尾俊一

細菌ノ免疫學的分類

醫學博士 青木薰

組織及臟器ノ移植ニ關スル研究

醫學博士 野村叶一

雲渦ノ研究

理學博士 藤原咲平

大正十三年一月推薦

現在アイヌ文様研究

文學博士 移川子之藏

神佛分離事件

文學博士 村上善之助

疲勞ト能率ノ研究

文學博士 村上善之助

樟腦屬化合物ノ研究

理學博士 浦本政三郎

大正十四年一月推薦

理學博士 小松文吉

程朱新注渡來後ニ於ケル新古兩派交渉ノ顛末

大正十四年一月推薦

文學博士 大江文城

日本經濟叢書索引編纂費

平安朝初期ニ至ル迄ノ日本道德思想ノ研究

瀧本誠一

有馬祐政

徳川時代及明治初年ニ傳來セル社會的科學特ニ經濟學並ニ商業交通ニ關スル文献ノ考證

武藤長藏

癌腫ノ發生原因ニ關スル實驗的研究

金子義保

蟋蟀科昆蟲生殖細胞ノ研究

東町文衛

醫學博士

足立文太郎

靜脈系統ノ解剖學的研究

船岡省吾

實驗的「フランベシア」

外松本信一

結晶體ノ表面ニ於ケル原子排列ノ狀態ト其電氣化學的舉動トノ關係

松原厚

無足魚類ノ研究

石川昌

第二十八 帝國學士院前役員

院長

自明治三十九年八月
至同 四十二年六月

×文學博士男爵

加藤 弘之

自明治四十二年七月一日
至大正六年八月二十日

×理學博士男爵

菊池 大麓

幹事

自明治三十九年八月
至同 四十二年六月

×文學博士

重野 安釋

自明治四十二年七月
至大正 二年七月

法學博士

宮崎道三郎

第一部各長

自明治三十九年七月十二日
至大正 六年十月二十日

法學博士男爵

穂積 陳重

第二部各長

自明治三十九年八月
至同 四十二年六月

×理學博士男爵

菊池 大麓

自明治四十二年七月一日
至大正 十年六月三十日

工學博士男爵

古市 公威

自大正十年七月一日
至同十三年六月三十日

理學博士

藤澤 利喜太郎

(×印ハ死亡)

第二十九 帝國學士院前會員及前客員

一、前會員

自明治三十九年六月十二日
至同 四十一年八月十四日

× 子爵

福 羽 美、靜

自明治三十九年六月十二日
至同 三十九年八月三十日

×文學博士

黒川 真頼

自明治三十九年六月十二日
至同 三十九年十月三十一日

×文學博士

根 本 通 明

自明治三十九年六月十二日
至同 三十九年十二月廿二日

理學博士

山 川 健 次 郎

自明治三十九年六月十四日
至同 四十二年二月十八日

×醫學博士子爵

橋 本 綱 常

自明治三十九年十月廿四日
至同 四十一年三月十一日

×文學博士

佐 藤 誠 實

自明治三十九年九月十七日
至同 四十二年九月十七日

×理學博士

箕 作 佳 吉

自明治三十九年九月十四日
至同 四十三年八月廿五日

×法學博士

梅 謙 次 郎

自明治三十九年六月十二日
至同 四十三年十二月六日

×文學博士

重 野 安 釋

自明治三十九年六月十二日
至同 四十四年九月十五日

自明治四十一年二月廿六日
至同 四十四年九月廿六日

自明治三十九年九月十四日
至大正 元年十月五日

自明治三十九年九月十四日
至大正 元年十二月十三日

自明治三十九年九月十四日
至大正 二年二月十五日

自明治三十九年六月十二日
至大正 二年四月十四日

自明治三十九年九月十四日
至大正 二年五月廿六日

自明治三十九年九月十四日
至大正 五年二月二日

自明治三十九年六月十二日
至大正 五年二月九日

自明治三十九年六月十二日
至大正 五年六月廿二日

自明治三十九年六月十二日
至大正 六年八月二十日

×男 爵 大鳥 圭介

×工學博士 下瀬 雅允

×法學博士 穗積 八束

×文學博士 元良 勇次郎

×文學博士 本居 豐穎

×文學博士 木村 正辭

×理學博士 坪井 正五郎

×醫學博士 三浦 守治

×文學博士 加藤 弘之

×法學博士 田中 芳男

×理學博士 菊池 大麓

自明治三十九年九月十四日
至大正 六年九月十日

自明治三十九年六月十二日
至大正 六年十二月四日

自明治三十九年九月十四日
至大正 六年二月廿四日

自明治四十一年八月四日
至大正 七年四月七日

自明治三十九年九月十四日
至大正 七年十二月廿一日

自明治三十九年六月十二日
至大正 八年五月十二日

自明治三十九年六月十二日
至大正 八年八月十二日

自明治四十一年六月廿八日
至大正 八年十一月十二日

自明治三十九年九月十四日
至大正 八年十一月廿一日

自明治四十二年二月四日
至大正 九年九月十三日

自明治 四年四月九日
至大正 九年十月六日

×文學博士 星野 恒

×法學博士 杉 亨二

×醫學博士 男爵 青山 胤通

×醫學博士 隈川 宗雄

×文學博士 中島 力造

×文學博士 三島 毅

×醫學博士 緒方 正規

×法學博士 松崎 藏之助

×理學博士 久原 躬弦

×法學博士 高橋 作術

×文學博士 子爵 末松 謙澄

自明治十八年十二月十五日 至同 三十九年六月十二日	×	醫學博士	田中芳男
自明治十八年十一月十五日 至同 三十九年六月十二日		醫學博士	三宅秀
自明治二十年二月十三日 至同 三十三年三月八日	×	文學博士	外山正一
自明治二十二年四月十四日 至同 三十九年六月十二日	×	理學博士男爵	菊池大麓
自明治二十八年十月十三日 至同 二十八年二月十八日	×		岡松甕谷
自明治二十三年六月八日 至同 三十九年六月十二日	×	文學博士	木村正辭
自明治二十五年一月十日 至同 三十一年八月廿七日	×	文學博士	島田重禮
自明治二十八年五月一日 至同 三十九年六月十二日		文學博士	井上哲次郎
自明治二十九年一月十二日 至同 三十九年六月十二日	×	醫學博士	大澤謙二
自明治二十九年五月十日 至同 三十九年六月十二日		法學博士	穂積陳重
自明治三十年五月九日 至同 三十九年六月十二日	×	理學博士	箕作佳吉

自明治三十一年二月十三日 至同 三十九年六月十二日	×	醫學博士	緒方正規
自明治卅一年四月十七日 至同 三十九年六月十二日		理學博士	櫻井錠二
自明治卅一年十二月十一日 至同 三十九年六月十二日		法學博士	宮崎道三郎
自明治三十二年二月十二日 至同 三十九年六月十二日		理學博士	小藤文次郎
自明治三十三年一月十四日 至同 三十九年六月十二日	×	文學博士	根本通明
自明治三十九年六月三十日 至同 三十九年六月十二日		文學博士	坪井九馬三
自明治三十九年五月六日 至同 三十九年六月十二日		理學博士	山川健次郎
自明治卅五年十二月十四日 至同 三十九年六月十二日		醫學博士	小金井良精
自明治卅六年十二月十三日 至同 卅九年六月十二日	×	理學博士	寺尾壽

二、客員

自明治二十八年四月廿五日
至同 三十九年六月十二日
ギユスターツ、ボアソナード、ド、フオンタラビー

(△ハ文部大輔ヨリ會員報帖ヲ交付セラレシ者○印ハ勅選ニ係ル者其他ハ會長ヨリ會員報帖ヲ交付セラレシ者×印ハ死亡ノ者)

第三十二 大正七年五月十二日帝國學士院
授賞式ニ於ケル穗積院長ノ演說

來賓閣下並に諸君

本日本院に於て授賞式を舉行するに際し各位の御臨場を辱くしたるは本院の光榮とする所でありました茲に一同に代つて深厚なる謝意を表します。

抑本邦に於ける學士院の設置は之を泰西諸國が數百年前より之を有するものに比すれば日尙ほ淺く隨つて其性質も未だ普く世人の熟知する所と爲つて居りませぬゆへ此機會に於て本院の性質及事業に就て其概要を述べ各位の清聽を煩はしたいと存じます本院の目的及職務は帝國學士院規定第一條に明記してある通り學術の發達を圖り教化を裨補するにありまして泰西諸國に於ける學士院も概ね皆同一の目的を以て設立せられて居るものであります此目的を有する帝國

學士院は左の三つの資格を合せ有するものであります。

- 一、内に在りては學問の中心機關たること
- 二、外に對しては世界各國に於ける學問の聯絡機關たること
- 三、學者優遇の府たること

此三つの資格を有することは略ぼ各國の學士院共通の性質とも云ふべきものであります今右の三資格に付て少しく之を敷演して説明致しますれば

第一、學士院は學問の中心機關たること
學士院の職能が一國の學問の中心たるに在る事は既に百年前に彼の有名なる天文學者「ラブラース」が論じて居りました凡そ一國に於ける學問の機關は大學を始め諸學校研究所學會等があり又個人の學問研究者もありますが學士院の大學其他の機關と異なる所は大學は學問の教育及研究の最高機關であり其他の機關も或は此二者を目的とし或は其一を目的とする者でありますが學士院は自身教育機關にも

非ず、又研究機關にも非ずして各大學其他の高等學術團體及學者の中央に居て學術の發達を圖るを以て其職分とするものであります。本院が此任務を盡すに付て是迄採り來りたる方法に付ては略ぼ泰西諸國の學士院の採り來りたるものに同じく主として左の數件であります。

一、學術研究の補助及獎勵

本院の議決に依り特別なる研究の必要を認め會員又は會員外の者をして之を擔當せしめ其費用を補助し又は器械を貸付し、又會員若くは會員外の學者より研究費補助の請求あるときは各部に於て委員を設けて審査を爲さしめたる上總會の議決を経て前同様の補助をいたします。

二、學術研究の獎勵

本院の議決に依り特に獎勵を要する學術に對して前同様の手續に依り研究者に獎學金又は獎勵品を支給いたします。

三、學術研究補助の推薦

學術研究補助者の依託に依り本院に於て委員を設けて其研究科目を審査し其補助の必要の程度に應じて推薦を爲すことがあります。例へば東照宮三百年祭記念會は毎年巨額の費用を支出して學術研究を補助することゝ爲つて居りますが本院は同會の依頼に依り毎年補助科目の審査を爲し其結果を同會に報告して研究補助の推薦をいたします。

四、新研究の結果の發表

學士院は各國に於ても學者の創始的新研究を發表する公認機關と爲つて居りました。同一事項に付て二人若くは二人以上の學者が殆んど同時に發見を爲すことは學問歷史上敢て珍らしからぬ事でありますが通常の場合に於ては其發見の先順位の名譽は先に學士院に於て發表したる者に屬します。我學士院に於きましても會員の研究は勿論會員の紹介に依り會員以外の學者の新研究の結果が報告せられました。之を學士院の紀事又は論文集等に載

せて世界に發表せられます。今回恩賜賞を授與せられまする柴田博士の「フラヴォーン」研究の如きも前後兩回本院に報告せられたものであります。

五出版

本院に於ては前述新研究の結果に關する報告論文等の外故人又は今人の著作にして學術上最も有益なるものは他に出版者無きときは之を出版することがあります。

六授賞

學術の進歩上最も有益なる研究の結果に對しては本院に於て最も慎重なる審査を行つた上毎年授賞致す事になつて居ります。授賞の制も各國に於て最も盛に行はれて居る所でありましたが我邦に於ては明治四十三年に本院に於ける學術獎勵事業の趣旨が恭くも天聰に達し賞典資御下賜の旨難有き御沙汰を拜しまして其翌年より毎年授賞式を行ふことに相成り次で男爵三井八郎

右衛門氏及男爵岩崎久彌氏より寄附せられたる學術研究獎勵費をも賞典資に充つることとなりました。

第二學士院は世界各國に於ける學問の聯絡機關たること、歐米諸國の學士院は前述の通り既に數百年若くは數十年前より設立せられて居るものであります。近年に至り其事業愈發展して參りまして前世紀の末年即ち一八九九年に萬國學士院聯合會の設立が議定せられ聯合會に屬する學士院は協同して學術の世界的事業に従事し且つ互に聯絡を保ちて學術の進歩を圖ることゝ爲り、一九〇六年に至り我帝國學士院も之に加入し爾來每會本院より代表者を出し來りました。今回も此開戦中に英國の皇立學士院「ロイヤルソサイエチー」の首唱に依り從來萬國學士院聯合會に於て行ひ居たる事業を將來如何なる方法に依りて遂行すべきかの問題に付き聯合諸國の學士院代表者會議を開設する事に決定しました。故に會員櫻井、田中館兩博士が本院を代表して同會議に列せらるゝ事になつて居ります。

第三學者優遇の府たること。

學士院は學者優遇の府でありまして歐米諸國に於きましても學士院會員は其數を限り碩學中より最も嚴重なる規則に依りて選舉せられますから、其會員たる事は學者の至大なる榮譽とし、國家社會より學者優遇の府と看做されて居ります。我帝國學士院も會員に定數あり且つ最も嚴重なる選舉法に依り推薦することゝ成つて居りますから、缺員ある毎に之を補充するには時としては一年餘もかゝる事がある位であります。本院に於て推選したる會員は勅旨を以て命せられ、勅任の待遇を賜ひ、又規定上高齡者には特に年金を賜ふ事があることに爲つて居ります。又最近に至り、政府より本院會員に鐵道乘車券の交附もありません。本院には前に述べました如く皇室より賞典資の御下賜あります。のみならず、此度は圖らずも會員一同を離宮に召されて午餐を賜はるの恩命を拜し、會員一同學問御獎勵の聖旨に對し、奉り感激の至に耐へず倍々責任の重きを感じる次第であります。

本院の性質及事業は概ね前に述べました通りであります。我邦に於ては學士院の設立日尙ほ淺く、世人未だ充分に其性質を知らざる爲之を歐米諸國の盛大に比すれば未だ極めて微々たる者であります。然し乍ら上に述べました皇室の厚き御保護があります。外近年に至り殊に大戰勃發以來本邦に於ても一般の社會が漸く學問の威力を認むるに至り、各方面より本院の事業を贊助するの舉の追々と殖えて參ります。そのは學問進歩の爲め誠に喜ばしき次第であります。前記皇室御下賜金及三井男爵岩崎男爵の寄附金の外、工學博士藥學博士高峰讓吉君男爵住友吉左衛門君男爵古河虎之助君男爵藤田平太郎君三井合名會社、山下龜三郎君故桂公爵記念事業會及末松子爵夫人より各學術獎勵金の寄附があり、又山下龜三郎君より學士院の建物寄附の申出があります。

扱本日授賞に相成ります。和田英松君輯宸記集及皇室御撰解題、木村泰賢君著印度六派哲學、理學博士柴田桂太君の植物界に於ける「フラ

グン體の研究醫學博士理學博士桂田富士郎君及醫學博士藤浪鑑君の日本住血吸蟲病の研究及法學博士瀧本誠一君編日本經濟叢書に關する授賞の理由は是より會員が説明せられますから之に譲りますが是等の著作又は研究に對する擬賞の審査及都會並に總會の審議は最も鄭重なる手續を履むこととなつて居ります隨つて之を受けらるる諸君の名譽は申すまでも無く斯の如き適當なる授賞の目的物を得たるは我學界の慶事と云はねばなりません茲に諸君の名譽に對し會員一同と共に祝意を表します。

第三十三 明治四十四年七月五日恩賜賞授

與式に於ける菊池前院長の演説

閣下並諸君

本日本院に於て初めて此授與式を舉行するに際し御臨場を辱ふした

るは一同に代りて深く謝する所であります是より一言學士院の性質及今日此授賞を行ふに至つたる經過を申述べたいと存じ清聴を煩します帝國學士院は帝國學士院規程第一條にある通り學術ノ發達ヲ圖リ教化ヲ裨補スルヲ以テ目的トスるのであります學術の發達即ち創始的學術研究を獎勵する爲めに設立せられたのであります抑々一國の文明國民の品位は獨り陸海軍の強大産業の隆盛又は富の程等物質的のものにのみ依るものでありませぬ教育の發達學藝の進歩に多大の關係のあることは申すまでもないことであります而して學士院は唯今申した通り此學術の發達を圖るものでありますからして文明國に於ては何れも學士院の設立のない所はありませぬ而して學士院の盛なる所は即ち又其國の文明の盛なる所其國の品位の高い所であります文明國には何處にも必ず學士院はあります其制度に於ては多少異なる所がありますが其學術の發達獎勵の爲に貢獻すると云ふことに於ては皆一つであります而して獎勵の方法は種々あり

ますが其主なるものが四つあります。

第一は學士院の會員になると、國家及社會より名譽なる禮遇を受ける故に學士院會員になることは學者の常に名譽として希望する所である故に是即ち學術の研究獎勵になる一つの理由であります。

第二には學士院に於ては學術研究の補助を致します或は學士院の方より指定して斯く／＼の研究が必要である之の爲めに若干の金を支出して此研究を然るべき人に託する或は又學者の方よりして斯くの方法を以て雖れ／＼の研究を自分がしたいと思ふ就ては是々の費用が要るのであるが其出處がないからどうぞ助けて貰ひたいと云ふやうなことで或は器械或は材料或は助手等の爲めに費用を出して研究を補助することをして居ります。

第三には學者のした所の研究を世間に知らせると云ふことが重要なことであります自分のした研究を成るべく早く確かなる道を以て世に發表することが即ち其研究に就いて自分が發明者たるの名譽を荷

ふ適當の道であります夫故に各國の學士院に於ては集會毎に會員自身の研究は勿論會員の紹介に依りて會員外の學者の研究の結果が提出されますさうして之を學士院の紀事又は論文集等に載せて世界に發表します尙ほ高尚なる學術上の著作にして到底民間出版者なきものを出版する等の事も此の部に屬します要するに學者が自分の研究を發表する機關のあることは最も大切なことでありまして確に學術研究獎勵の最重要なる一方法であります。第四には授賞の方法であります即ち過去何年間かの間に現はれた所の著書に對し或は研究に對し之に賞を授けると云ふことであります或は出版前に學士院に提出して學士院より之に賞を授けるものもああります。以上は學術研究を獎勵する最も良き道であります。歐米の學士院に於ては第二第三第四の事業を盛に行つて居ります勿論是等の爲めに要する費用は少からぬことでありますけれどもそれ等は或は國庫より

の補助に依り或は個人の寄附等に依つて實に盛なることを致して居ります不幸にして我が學士院に於ては經費の不充分なる爲めに随分會員中には有益なる學術研究の考がありますけれども之に其研究を遂行するだけの補助を與へる途もありませぬ又紀事等を印刷することも本年までは出来ませぬでしたから随つて第三の研究を公にするの途を開くこともありませぬでした随つて本院に提出せらるゝ所の論文等の數も至つて少ないことでありました本年よりは紀事を印刷する筈になつて居りますが是とても多くの論文が出て來る場合に於ては十分にそれを皆印刷に附することは出來ないやうな憫れなる次第であります第四の授賞に就ても本院に於ては何も今日まではしなかつたのであります但し學士院に於て是等のことに就て會員が苦心して居ることが何時しか天聽に達しまして昨年の本月本日有難い御沙汰書をお戴きました即ち學術の研究の奨励の爲めに十年間年々賞典費として二千圓宛御下賜相成ることになりましたので初めて第四の授

賞に着手することが出来ました會員一同感泣に堪へぬ次第であります而して此の授賞の有難い思召しに對しては十分に御趣意の貫徹するやうにしなければなりませんからして先づ授賞規則を制定致しましたして凡そ次の通り極めました。

授賞に就ては二通りの途を探ることにしました、一つは會員の推薦一つは論文の募集である會員の推薦とは如何なる研究と云ふことに限らず會員中に於て授賞に價すると考へた所のものを一定の時期に於て之を推薦することであります今一つは何々論題を定めてさうして其答案を募集すること此二つの方法でありますさうして何れにしても其擬賞の審議に就ては最も鄭重なる手續を履むことに致しました而して凡そ次の事項を定めました賞は會員以外の者に限り授けると隨て會員の研究に對しては與へぬこと賞は年々各部に各々一個授けると云ふこと尤も特別の場合には之を二つに分けて與へることも出來ると云ふことに致しました而して若し其當時に於て適當たる授賞候補

者を發見せざる場合に於ては、之を次の年に繰延ばし尙ほ適當なるもの無き時は適當なるものを發見するまで何時までも其儘にして置くこと賞は賞牌に賞金を添へて授けること。

斯の如く定めまして本年三月の例會に於て各部に於て推薦するべきものがあるならば推薦するやうにと云ふことになりました。第一部に於ては今回推薦がありませんでしたが第二部に於ては即ち今日授賞をせんとする木村博士が推薦になりました。それより審査委員を選定して十分に審査を遂げ審査委員會部會及總會に於て孰れも全會一致の決議を経て、今日愈々授賞をすことになりました。木村博士の名譽は申すまでもなきことであります。斯かる適當なる授賞の目的物のあつたことは吾が學術界の名譽として宜しからうと考へます。尙其事業の概略に就ては、是より會員長岡博士の説明がありますから、それに譲ります。それで斯の如く學術の研究を表彰することは獎勵の方法として最も有力なるものゝ一と考へます。而して之に依りて本院の性質も

益す廣く世間に知れることになり、本院の目的を遂行する上に於て多大の便利を得るであらうと考へます。是れは獨り本院の爲と云ふ譯ではありません。國家の爲に最慶賀す可き次第と考へます。而して今日此式典を擧げるを得たのは實に難有恩命の結果であります。會員一同感謝惜く能はざる所であります。

大正十四年四月

東京市下谷區上野公園内

帝國學士院

電話淺草六一三二

大正十四年四月

東京市下谷區上野公園内

帝國學士院

電話淺草六一三二

97
392

大正十四年

帝國學士院會員錄

(附、役員、及職員)

大正十四年四月調

(東京芝合入町厚明會發行)

97-392



帝國學士院

院長 役
幹事

員

從二位勳一等法學博士男爵

穗積

陳重

正三位勳一等理學博士

櫻井

錠二

正三位勳一等文學博士

井上

哲次郎

第二部部長

正三位勳一等醫學博士

佐藤

三吉

發行所寄贈本

(大正十四年四月調)

大正 14. 6. 5 寄贈

- 第二部 正四位勳二等 醫學博士 三五三宅 秀 小石、竹早、八一 (小石川 二六六)
- 第一部 正三位勳一等 文學博士 井上哲次郎 小石、表、一〇九 (小石川 九六六)
- 第二部 正三位勳一等 醫學博士 大澤謙二 豊多、野方町 (中野 一三二)
- 第一部 從二位勳一等 法學博士男爵 穂積陳重 牛込、拂方、九 (牛込 四三三)
- 第二部 正三位勳一等 醫學博士 櫻井錠二 本郷、駒込曙、一六 (小石川 七五二)
- 第一部 正三位勳一等 法學博士 宮崎道三郎 豊多、千駄ヶ谷 五、六、三
- 第二部 正三位勳一等 醫學博士 小藤文次郎 牛込、二十崎、二 (牛込 二、七二〇)

第一清酒會

- 第一部 正三位勳二等 文學博士 坪井九馬三 本郷、向ヶ岡 三 (小石川 二、五四〇)
- 第二部 正三位勳一等 醫學博士 小金井良精 本郷、一駒込 六 (小石川 三、五〇五)
- 第二部 正三位勳一等 醫學博士 長井長義 豊多、澁谷、青山 南、七、三 (青山 一、二六一)
- 第一部 從四位 文學博士 南條文雄 豊多、澁谷、青山 北、七、一 (九段 七〇五)
- 第二部 從三位勳一等 工學博士男爵 古市公威 豊多、下澁谷、伊勢 山、六、二 (青山 一)
- 第二部 正三位勳一等 醫學博士 田中館愛橘 小石川、雜司ヶ谷、一、四
- 第二部 正三位勳二等 醫學博士男爵 北里柴三郎 麻布、仲ノ、一九 (芝 二、七〇九)
- 第一部 從三位勳一等 法學博士 富井政章 牛込、市ヶ谷藥 王寺、七、一 (牛込 二、一一二)

第一部	從三位勳一等 法學博士	土方寧	魏町、一番、四七 (四谷三、〇〇四)
第二部	正三位勳一等 醫學博士	藤澤利喜太郎	相州鎌倉長谷入地
第二部	正三位勳二等 醫學博士	三浦謹之助	本郷、龍岡、一七 (小石川一、七四〇)
第二部	從三位勳二等 醫學博士	長岡半太郎	下谷、上一野 (淺草五、七五六)
第一部	正三位勳二等 法學博士	岡野敬次郎	麻布、六本木、六七 (青山六、〇八八)
第一部	正三位勳二等 法學博士	一木喜徳郎	本郷、駒込曙、七 (小石川一七七)
第一部	從三位勳二等 文學博士	上田萬年	下谷、一谷中 (淺草五、九九四)
第二部	正三位勳一等 醫學博士	松村任三	本郷、駒込 (小石川六、三七〇)

第二部	從三位勳二等 文學博士	三上參次	本郷、一六駒込 (小石川四、六〇〇)
第二部	正三位勳二等 醫學博士	中村精男	牛込、南、三三 (牛込一、五九〇)
第一部	從三位勳一等 法學博士	金井延	豊多、戸塚、源兵衛、一三九 (牛込一八五)
第二部	正三位勳一等 醫學博士	佐藤三吉	本郷、駒込曙、一三三 (小石川六、九一一)
第二部	從三位勳二等 醫學博士	平山信	麻布、永坂、一 (青山五、五二四)
第一部	正四位勳二等 法學博士	美濃部達吉	小石、竹早、一二四 (小石川一八八〇)
第一部	從四位 文學博士	大槻文彦	下谷、根岸御行の松西
第二部	正三位勳一等 醫學博士	石川千代松	四谷、大番、一九 (四谷四、〇二八)

第一部	正四位勳二等 文學博士	高楠順次郎	小石、關口臺、五(牛込 七八八)
第一部	正四位勳二等 法學博士	山崎覺次郎	小石、原、一二六(小石川 五九〇)
第一部	從三位勳二等 文學博士	芳賀矢一	小石、大塚坂下、 一(小石川二、八〇二)
第一部	從三位勳二等 文學博士	服部宇之吉	豐多、戸塚、 諏訪、一八三(牛込二、三六〇)
第一部	正四位勳二等 法學博士	小野塚喜平次	小石、小日向 臺、二(小石川 二二)
第一部	正五位 文學博士	村上專精	小石、林、三一(小石川 三二一)
第二部	從三位勳二等 醫學博士	伊藤隼三	鳥取市本町 一(上京三、四二二)
第二部	正三位勳二等 理學博士	水野敏之丞	京都、上京、 塔ノ段櫻木町(上京三、四二二)

第一部	從三位勳二等 法學博士	織田萬	京都、下鴨、松 ノ木、一八(上京一、九九六)
第二部	正三位勳二等 理學博士	池田菊苗	麴町、富士見、 五(上京一、九六六)
第一部	從三位勳二等 文學博士	白鳥倉吉	荏原、目黒村上目 黒、宿山一五七五
第二部	正三位勳二等 醫學博士	山極勝三郎	本郷、駒込、西片、 一〇、三(上京三、五三六)
第一部	正四位勳二等 文學博士	松本文三郎	京都、上京、 淨土寺、二
第二部	正四位勳二等 法學博士	春木忠一郎	本郷、駒込西片、 一〇、一(小石川一、七三三)
第二部	正三位勳二等 理學博士	三好太學	本郷、駒込西片、 一〇、一(小石川一、七三三)
第一部	正四位勳二等 法學博士	立作貞太郎	荏原、大崎、下大 崎、八(高輪一、〇九)

第二部	從三位勳二等 醫學博士	荒木寅三郎	京都、上京、萬里 小路近衛上ル官舎 (上京一、四〇〇)
第一部	正四位勳二等 文學博士	松本亦太郎	小石、小日向臺、 二ノ、一、五 (小石川三、〇〇五)
第二部	正三位勳二等 理學博士	佐々木忠次郎	赤坂、青山南、 六ノ、一二〇 (青山 二九七)
第一部	正五位勳四等 法學博士	福田文徳三	豐多、中野、 本郷、一〇、一 (四谷一、一九)
第二部	從四位勳三等 理學博士	本多光太郎	仙臺、米ヶ袋 鹿ノ子清水二一 (小石川 六九〇)
第二部	從三位勳二等 工學博士	高松豊吉	本郷、駒込 西片、一三 (小石川 六九〇)
第二部	正四位勳二等 醫學博士	宮入慶之助	福岡、樹木屋 一 (小石川 六九〇)
第二部	勳四等 醫學博士	野口英世	

The Rockefeller Institute
For Medical Research.
67 1/2 Street and Avenue A.
New York City, U.S.A.

第一部	正四位勳三等 文學博士	姉崎正治	小石、白山御殿、 一、七 (小石川二、〇二六)
第一部	正四位勳二等 法學博士	田島錦治	京都、上京 吉田神樂岡三 (上京一、〇一一)
第一部	正四位勳二等 文學博士	市村瓊次郎	豐多、戸塚、諏訪 八〇

事務職員

文書部 屬記

佐原茂一

麹町、元橋、一文部省構内官舎

囑託 金坂周次

本郷、駒込四片、一〇、一〇、二〇

南雲由松

市外、中野、上ノ原、八、四

和算史調査部員

囑託 宇都宮虎雄

市外、落合、下落合、一、六〇〇

猪俣一三

下谷、上野町、一、一、五、高橋榮太郎方

燃藜室記述調査部員

囑託 文學博士 今西龍

京都、愛宕、田中大溝、四、若田方

帝室制度史調査部員

囑託 文學博士 和田英松

市外、中野町桃園、三三〇〇

同 文學博士 山本信哉

府下、淀橋、角筈、七、二、五

同 田邊勝哉

赤坂、高樹、一四、六

同 淺野長武

本郷、向ヶ岡彌生、三

(小石川 三、六三五)

同 櫻井秀

本郷、駒込動坂、三、六、二

同 諸橋轍次

北豊島、高田、雜司ヶ谷、三三八

同 龍蕭

小石川、中富坂、一、九

囑託

芝

葛

盛

二牛込、砂土原、
五（牛込一、七八五）

同

黒井

大

圓

府下、荏原、松澤
四村、赤堤

同

藤原

猶

雪

小石川、久堅、三八

同

高橋

隆

三

府下、高田、大字
雜司ヶ谷、四五二

我邦卜歐洲諸國卜交通史料調査部員

囑託

文學博士

村上直次郎

北豊島、長崎、
一〇五七

（小石川二、〇七四）

文學博士

田英

英

英

山手、三軒、
〇〇〇

帝室師範史蹟調査部員

大正十四年四月

東京市下谷區上野公園

帝國學士院

電話淺草六、一三二番

97
392

終

